

2025年度 大学院地域創造インスティテュート 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2025/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【XB001】 地域分析の基礎 [石山 恒貴、柿野 成美、北郷 裕美、近藤 章夫、高尾 真紀子、野田 岳仁、増淵 敏之] 春学期後半/Spring(2nd half).....	1
【XB002】 地域創造ワークショップ [柿野 成美] 春学期前半/Spring(1st half)	2
【XB003】 調査法 [高尾 真紀子] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	3
【XB004】 研究法 [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half).....	4
【XB005】 質的研究法 [齊藤 弘通] 春学期前半/Spring(1st half).....	5
【XB006】 特別講義 (地域から考える日本経済) [梅溪 健児] 秋学期前半/Fall(1st half)	7
【XB007】 人的資源管理論 [石山 恒貴] 秋学期前半/Fall(1st half)	8
【XB008】 地域活性化システム論 [高尾 真紀子] 春学期後半/Spring(2nd half)	9
【XB009】 文化地理学 [増淵 敏之] 秋学期前半/Fall(1st half)	10
【XB010】 都市空間論 [上山 肇] 秋学期前半/Fall(1st half)	11
【XB011】 観光社会学 [北郷 裕美] 秋学期前半/Fall(1st half)	12
【XB012】 地域産業論 [橋本 正洋] 秋学期前半/Fall(1st half)	13
【XB013】 中小企業論 [黒澤 佳子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	15
【XB014】 CSR論 [佐々木 恭子] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	16
【XB101】 ウェルビーイング論 [高尾 真紀子] 春学期前半/Spring(1st half).....	17
【XB102】 実証分析入門 [柿野 成美] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	18
【XB103】 雇用政策研究 (マクロ) [石山 恒貴] 春学期前半/Spring(1st half)	19
【XB104】 キャリア理論と統計分析 [佐藤 雄一郎] 春学期前半/Spring(1st half).....	21
【XB105】 キャリア政策研究 [岸田 泰則] 秋学期前半/Fall(1st half).....	22
【XB106】 地域雇用政策事例研究 [石山 恒貴] 秋学期後半/Fall(2nd half)	23
【XB107】 人材育成論 [石山 恒貴] 春学期後半/Spring(2nd half)	24
【XB108】 地域コミュニティ論 [中島 由紀] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	25
【XB109】 消費者政策論 [柿野 成美] 春学期後半/Spring(2nd half)	27
【XB110】 生活政策論 [柿野 成美] 秋学期前半/Fall(1st half)	28
【XB111】 男女共同参画政策論 [池永 肇恵] 春学期後半/Spring(2nd half)	29
【XB112】 実践地方行政論 [池永 肇恵] 秋学期後半/Fall(2nd half)	30
【XB113】 まちづくり事例研究 [上山 肇] 春学期後半/Spring(2nd half).....	31
【XB114】 比較都市事例研究 [伴 宣久] 春学期後半/Spring(2nd half)	32
【XB115】 コミュニティメディア論 [北郷 裕美] 秋学期後半/Fall(2nd half)	33
【XB116】 都市文化論 [増淵 敏之] 春学期前半/Spring(1st half).....	34
【XB117】 文化社会学 [宮入 恭平] 春学期後半/Spring(2nd half)	35
【XB118】 観光開発論 [北郷 裕美] 春学期前半/Spring(1st half).....	36
【XB119】 フィールドワーク論 [北郷 裕美] 春学期後半/Spring(2nd half)	37
【XB120】 観光マーケティング論 [青木 洋高] 春学期集中/Intensive(Spring).....	38
【XB121】 地域経営戦略論 [橋本 正洋] 春学期後半/Spring(2nd half)	39
【XB122】 地域イノベーション論 [橋本 正洋] 春学期前半/Spring(1st half).....	40
【XB123】 新産業創出論 [小具 龍史] 春学期集中/Intensive(Spring)	41
【XB124】 E S G投資と企業経営 [田中 優希] 春学期前半/Spring(1st half).....	42
【XB125】 ダイバーシティ経営 [斎藤 悦子] 秋学期前半/Fall(1st half)	44
【XB126】 コーポレートガバナンス [林 順一] 秋学期後半/Fall(2nd half)	45
【XB127】 地域活性化特論 [橋本 正洋] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	46
【XB128】 特別講義 (統計学入門) [後藤 嘉孝] 秋学期前半/Fall(1st half).....	47
【XB129】 経済学 [梅溪 健児] 春学期前半/Spring(1st half)	48

[XB130]	社会学 [高岡 文章] 春学期前半/Spring(1st half)	49
[XB131]	レポートライティング [佐藤 雄一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	50
[XB501]	地域共生社会特論 [水野 雅男、関司 直也、宮城 孝、金 慧英、杉浦 ちなみ、眞保 智子、渡辺 寛人] 秋学期授業/Fall	51
[XB502]	フィールドワーク演習 (1単位) [水野 雅男] 秋学期集中/Intensive(Fall)	52
[XB503]	フィールドワーク演習 (1単位) [石山 恒貴] 秋学期集中/Intensive(Fall)	53
[XB504]	特別講義 (希望学概論) [玄田 有史] 秋学期前半/Fall(1st half)	54
[XB505]	住宅政策特論 [水野 雅男] 秋学期前半/Fall(1st half)	55
[XB506]	内発的農村発展特論 [関司 直也] 春学期前半/Spring(1st half)	56
[XB507]	環境社会学特論 [野田 岳仁] 秋学期後半/Fall(2nd half)	57
[XB508]	経済地理学 (経済地理学A) [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	58
[XB509]	ソーシャル・イノベーション特論 [土肥 将敦] 春学期前半/Spring(1st half)	59
[XB510]	地域マネジメント [松本 敦則] 春学期後半/Spring(2nd half)	60
[XB511]	地域文化と教育特論 [杉浦 ちなみ] 秋学期後半/Fall(2nd half)	61
[XB512]	キャリアと雇用の経済学1 [梅崎 修] 秋学期前半/Fall(1st half)	62
[XB513]	キャリアと雇用の経済学2 [梅崎 修] 秋学期後半/Fall(2nd half)	63
[XB514]	特別講義 (九州地域創生論) [岡野 秀之] 秋学期集中/Intensive(Fall)	64
[XB203]	地域創造演習A [石山 恒貴] 春学期授業/Spring	66
[XB204]	地域創造演習B [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall	67
[XB205]	地域創造演習A [高尾 真紀子] 春学期授業/Spring	68
[XB206]	地域創造演習B [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	69
[XB207]	地域創造演習A [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	70
[XB208]	地域創造演習B [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	71
[XB209]	地域創造演習A [上山 肇] 春学期授業/Spring	72
[XB210]	地域創造演習B [上山 肇] 秋学期授業/Fall	73
[XB211]	地域創造演習A [北郷 裕美] 春学期授業/Spring	74
[XB212]	地域創造演習B [北郷 裕美] 秋学期授業/Fall	75
[XB215]	地域創造演習A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	76
[XB216]	地域創造演習B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	77
[XB217]	地域創造演習A [田中 優希] 春学期授業/Spring	78
[XB218]	地域創造演習B [田中 優希] 秋学期授業/Fall	79
[XB219]	地域創造演習A [梅崎 修] 春学期授業/Spring	80
[XB220]	地域創造演習B [梅崎 修] 秋学期授業/Fall	81
[XB221]	地域創造演習A [水野 雅男] 春学期授業/Spring	82
[XB222]	地域創造演習B [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	83
[XB223]	地域創造演習A [関司 直也] 春学期授業/Spring	84
[XB224]	地域創造演習B [関司 直也] 秋学期授業/Fall	85
[XB225]	地域創造演習A [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	86
[XB226]	地域創造演習B [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	87
[XB227]	地域創造演習A [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	88
[XB228]	地域創造演習B [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	89
[XB301]	研究論文指導A [高尾 真紀子] 春学期授業/Spring	90
[XB302]	研究論文指導B [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	91
[XB303]	研究論文指導A [上山 肇] 春学期授業/Spring	92
[XB304]	研究論文指導B [上山 肇] 秋学期授業/Fall	93
[XB305]	研究論文指導A [石山 恒貴] 春学期授業/Spring	94
[XB306]	研究論文指導B [石山 恒貴] 秋学期授業/Fall	95
[XB307]	研究論文指導A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	96
[XB308]	研究論文指導B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	97
[XB309]	研究論文指導A [田中 優希] 春学期授業/Spring	98
[XB310]	研究論文指導B [田中 優希] 秋学期授業/Fall	99
[XB311]	研究論文指導A [梅崎 修] 春学期授業/Spring	100
[XB312]	研究論文指導B [梅崎 修] 秋学期授業/Fall	101

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

地域分析の基礎

石山 恒貴、柿野 成美、北郷 裕美、近藤 章夫、高尾 真紀子、野田 岳仁、増淵 敏之

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策の分析や研究論文作成に必要な統計データの分析手法、社会調査における量的・質的データの収集と分析、フィールドワーク、政策及び企業の事例研究の手法等をその背景にある学術的根拠とともに学ぶ。

【到達目標】

修士論文（修士課程）、博士論文（博士後期課程）の作成に必要な分析スキルを身に付け、自身の論文に適切な手法を選択し、活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当教員がテーマに沿って講義、グループディスカッション、レポート、プレゼンなどを交えた授業を行う。毎回何らかの課題（小レポート等）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	質的調査の方法と分析（石山）	質的調査の背景にある学術的根拠を理解したうえで、データを収集し、その分析を行う手法について学ぶ。さらに、分析結果を政策分析に反映する考え方について学ぶ。
2回(3・4)	量的調査の方法と分析（高尾）	量的調査の質問票の作成方法と基本的な分析手法について学び、目的に応じ、どのような分析手法を選択すべきかを検討する。
3回(5・6)	フィールドワーク（増淵）	地理学的なアプローチでのフィールドワークについて論じる。事例を挙げてわかり易く説明することを念頭に置く。
4回(7・8)	統計データと政策分析（柿野）	政府統計データや個票データの扱いについて学び、分析結果の記述方法とそれを踏まえた政策分析について検討する。
5回(9・10)	社会学による地域社会の分析方法（野田）	地域社会に暮らす他者の合理性を理解するためにフィールドワーク・参与観察・生活史といった社会学の調査法とその思想をレクチャーする。
6回(11・12)	地理情報システムと空間解析（近藤）	地域研究に欠かせない地図や地理情報システム（GIS）の活用法について、基礎的な空間解析とともに習得する。
7回(13・14)	フィールドワーク（事例研究）（北郷）	具体的なフィールドワーク・テーマを基に半構造化インタビューの課題等、社会調査の意味を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ごとにテーマに対応した課題（小レポート等）を課す。

新聞やその他のメディアで、今起きていることを各自が把握して授業に参加するようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』2017年、ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート及び平常点（授業への貢献等）の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の学びやすさを考慮し順序を変更した。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master methods and methodologies necessary for policy analysis and preparing master's thesis. Students learn about analysis of statistical data, collection and analysis of quantitative /qualitative data in social surveys, field work, case study.

BSP500Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

地域創造ワークショップ

柿野 成美

備考（履修条件等）：インスティテュート共通科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目では、これからの地域づくりの考え方・進め方等について各教員からの講義を聴講して理解を深め、グループでのディスカッションを通じて地域づくりの多様な考え方を交流することにより、独自の考え方を深めることを目的とする。

【到達目標】

毎回講師が提示する地域創造に関するテーマ・論点に応じたワークショップでの議論を通じて、これからの地域創造の在り方について考えることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業当授業は、授業担当教員の他、各実施回1名ずつゲスト教員が講義に加わる。前半は各教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、各教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表し、最後に担当教員が講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス ワークショップ①	当科目の主旨及び内容説明。 ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
2回(3・4)	ワークショップ②	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
3回(5・6)	ワークショップ③	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
4回(7・8)	ワークショップ④	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
5回(9・10)	ワークショップ⑤	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
6回(11・12)	ワークショップ⑥	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。
7回(13・14)	ワークショップ⑦	ゲストによる講義をもとにワークショップ・担当教員による講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ワークショップで議論した内容及び個人の意見をまとめ、毎回レポートとして提出する。本授業の復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】

講義内容に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点60％、提出レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】

限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなどの工夫をすること。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、ノートPCを持参すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to deepen understanding by listening to lectures by each teacher on the ideas and methods of future regional development, and to deepen original ideas by exchanging diverse ideas on regional development through group discussions.

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

調査法

高尾 真紀子

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的データの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】

データサイエンスの基礎的な考え方を理解した上で、量的調査の実証分析の方法を習得し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）による分析方法を実習し、分析結果を正しく解釈するための統計の基礎を学ぶ。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としないが、エクセルの基礎的操作は習得していることが望ましい。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション 経済統計の基礎	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
2回(3・4)	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
3回(5・6)	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイ二乗検定、t検定、F検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
4回(7・8)	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
5回(9・10)	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。
6回(11・12)	多変量解析 統計分析演習	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。

7回(13・14) 課題発表

各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excelの基本操作が出来るようにしておくこと。

授業中のデータをUSB等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。

本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い(データをさがし加工する)、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

飽戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書
神林博史・三輪哲『社会調査のための統計学 生きた事例で理解する』技術評論社

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』

森田果『実証分析入門』日本評論社

西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社

西内啓『統計学が日本を救う 少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社

涌井良幸、涌井 貞美『Excelで学ぶ統計解析』

涌井良幸、涌井 貞美『図解 使える統計学』

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、実習（30％）、レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

各自が情報端末を使用（インターネットによるデータのダウンロードが行える）しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】

基礎的な内容なので、出来る限り早期（1年目）に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

研究法

上山 肇

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成手法の習得

【到達目標】

研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義 ②研究の内容 ③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2回(3・4)	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3回(5・6)	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4回(7・8)	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5回(9・10)	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6回(11・12)	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7回(13・14)	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに即した先行研究の調査・分析を行います。それと並行し、文献を事前に読み、配布資料や演習問題（スライド作成等）の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、スライド作成等）に対応してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

[Learning Objectives]

Setting research themes and creating research plans based on previous research.

[Learning activities outside of classroom]

Survey and analysis of previous research according to your theme

[Grading Criteria /Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

BSP510Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

質的研究法

齊藤 弘通

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的研究法とは、事象の性質や特徴といった数値化しにくいデータを扱い、事象を質的に理解、説明、解釈しようとする研究方法であり、量的研究ではアプローチできない研究課題を解明する上で有用なものである。本科目ではこの質的研究法の特長や質的研究を行う際の流れを理解するとともに、質的研究で用いられる代表的な分析手法について理解、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ①質的研究法の特長、研究プロセスが説明できる。
- ②インタビュー法や観察法を用いて質的データを収集することができる。
- ③収集した質的データを適切に分析・解釈することができる。
- ④質的研究を活用した研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は各回とも講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
- ・演習は個人で行うものとチームで行うものがある。
- ・提出された課題については毎回いくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・第6回・第7回ではチームで設定した調査課題に関するインタビューデータを収集・分析するとともに、最終報告の途中経過について発表する。（インタビュー調査については対面またはZOOMなどを活用したオンライン上での実施を想定）
- ・講義は質的研究法の初学者を念頭において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	質的研究の特性と研究プロセス	量的研究との対比から、質的研究の持つ特性について詳しく理解する。また、質的研究の一般的な流れ（リサーチクエスチョンの設定、調査対象の選定とデータの収集、テキストデータに対するコーディングとカテゴリ化、概念モデル・理論の生成）について理解する。
2回（3・4）	質的データ収集の技法①インタビュー法	質的データを収集するための技法であるインタビュー法の類型や特徴、インタビュー調査の際に準備すべきこと、インタビューの具体的な進め方について理解する。
3回（5・6）	質的データ収集の技法②観察法	質的データを収集するための技法である観察法の類型や特徴、進め方について理解する。また、映像データを観察し、フィールドノーツを作成する手順を実際に体験する。

4回（7・8） 質的データの解釈・分析

収集した質的データに対して、コードを割り当て（コーディング）、カテゴリを生成していくプロセスについて理解する。また、カテゴリ間の関係性を図解し、分析結果をストーリーラインにまとめていく手順を把握する。質的研究で用いられる代表的な分析法（M-GTA、SCAT、TEM、ドキュメント分析等）について理解する。また、M-GTAなど、代表的な質的データ分析法を用いた研究論文を読み、分析手続きの仕方や結果のまとめ方を把握する。チームごとに、設定された調査課題に応じて実際にインタビュー調査を行い、質的データを収集するとともに、得られたデータを分析する演習を行う。チームごとにインタビュー調査の途中経過を報告資料にまとめ、発表する。（なお最終報告資料は、途中経過報告に対する教員からのフィードバックを踏まえ、授業後の指定期日までに提出する。）また、自身の研究において質的研究を用いる場合の研究計画について検討する。

5回（9・10） 代表的な質的データ分析法

6回（11・12） 質的データの収集・分析演習

7回（13・14） 演習結果の発表・研究計画の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①本授業の準備学習および復習のため、質的研究法に関する文献や論文を読み、ポイントを要約する。（文献や論文は都度授業において配布する）
 - ②授業内で行った演習に関する課題に取り組む。（課題の内容は随時指示する）
 - ③チームで取り組むインタビュー調査演習において、授業外の時間を用いて、データの分析と調査報告資料の作成を行う。
 - ④レポート課題に取り組む。（レポートのテーマは授業において指示する）
- ・本授業の準備学習および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するレジュメ（パワーポイントにて作成）をテキストとして使用する。

【参考書】

ウヴェ・フリック著・小田博志監訳『新版 質的研究入門＜人間の科学＞のための方法論』春秋社,2011年
太田裕子『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへー研究計画から論文作成までー』東京図書,2019年
大谷尚『質的研究の考え方 研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会,2019年
佐藤郁哉『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社,2002年
佐藤郁哉『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社,2008年
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編『質的研究法マッピング』新曜社,2019年
須田敏子『マネジメント研究への招待 研究方法の種類と選択』中央経済社,2019年
岡田昌毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTAによるキャリア研究』晃洋書房, 2017年
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分により、成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ演習への積極的参加）20%
- ②文献・論文の要約および課題への取り組み 20%
- ③インタビュー調査報告資料の作成（チームにて作成）20%
- ④レポート課題への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

- ・質的研究のイメージをより深めてもらえるよう、オープンコーディングやM-GTA、SCAT、TEM、事例研究法など、様々な質的分析法が用いられた論文を昨年度より多く紹介する。
- ・質的データの分析過程についてより体験的に理解してもらえるよう、授業で使用した演習用の題材やワークシートを改良する。
- ・質的データ分析におけるオープンコーディングの手続きについて時間をかけて体験していただくようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

- ・少人数チームでのインタビュー調査演習（インタビュー調査の実施、データの分析、調査報告資料の作成）があることにご留意いただきたい。また当該演習において授業外の時間を活用する場合があります点もお含みおきいただきたい。
- ・なお、授業外でインタビュー調査を行う際には、ZOOMなどのオンラインミーティングツールを活用する場合があります点もお含みおきいただきたい。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course introduces the qualitative research methods to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding the characteristics and process of qualitative research methods.

【Goal】

The goals of this course are to

- be able to explain the characteristics and process of qualitative research methods,
- be able to collect qualitative data using interview survey and observation method,
- be able to analyze and interpret the collected qualitative data properly,
- be able to make a research plan using qualitative research.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Read and summarize the literature and articles on qualitative research methods.
- Work on assignments related to the exercises in the class.
- Analyze qualitative data and prepare research report materials for the interview research exercise in teams, using time outside of class.
- Work on the report assignment.

【Grading criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Ordinary points (class attendance, active participation in group exercises) :20%
- Summarization of documents and articles and work on assignments: 20%
- Preparation of interview survey report materials (prepared by team): 20%
- Efforts and quality of the report assignment: 40%

ECN520Q2（経済学 / Economics 500）

特別講義（地域から考える日本経済）

梅溪 健児

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論はマクロ経済学の枠組みと分析を用いることが多い。しかし、本講義はそれではなく、厳しさを増している地域の暮らしに重点を置いて日本経済を考察する。例えば、医療については、高齢化が医療費を押し上げ社会保障費を増大させるというのが通常の日本経済論であるが、本講義は医師の偏在がもたらす医療サービスの先細りが地域の暮らしの差し迫った課題であることを重視する。授業では、人口動態と産業動向によって地域の市場が縮小を迫られていることをデータで押さえ、暮らしを支える所得・医療・教育・商業・交通などの地域格差を探索する。さらに、日本経済が直面する就職氷河期の影響、離職の増加と人手不足、外国人労働の増加などについて地域の視点で再考する。授業の目的は、①これまでふつうの生活として可能であったことが地域の暮らしでは困難になるという流れを理解すること、②地域の暮らしに求められる支援策の枠組みを評価することの2点である。

【到達目標】

本講義の目標は次の2点である。第一に、日本経済の長期停滞は国民生活に大きな打撃を与えたが、地域の暮らしの視点に立つと先鋭な問題は何であるのかを理解すること。第二に、即断ではなく関連する事実を見極めてポピュリズム的な政策に陥らない前提に立ち、暮らしの継続に対処する政策視点を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教材（パワポ）、関係資料（文献等）を配布して行う。各回の前半は講義とし、後半は輪読と討議にあてる。必要な教材は一部を除いて1週間前に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	長期停滞を経た日本経済	日本経済は少子高齢化が加速し、産業構造のサービス化とデジタル化が進む。集積が進む東京に対し地方は消滅の危機が深まる。人口減少が地域の暮らしに影響する論点の全体像を学ぶ。
2回(3・4)	東京集中の比較：過去と現在	現在の東京集中は高度成長期と異なり女性が多く、しかも東京都の豊かな財政に支えられた政策により集中が続く勢いである。現在の東京集中の強さを学ぶ。
3回(5・6)	地域格差の考察：所得、健康、教育	人口動態と産業構造の変化により地域格差は高まる傾向にある。所得、健康、教育について格差の現状を学ぶ。事例としては、医師の偏在、教員不足を考える。団塊ジュニア世代の就職期が長期停滞と重なり、賃金の停滞、非正規雇用の拡がり、少子化の加速が生じた。この世代は中高年化し、深まる問題を学ぶ。
4回(7・8)	就職氷河期のインパクト	

5 回（9・10） 経済停滞と労働市場の変貌

高齢者と女性の雇用化が増加しながら、最賃引上げ、人手不足と雇用ミスマッチの高まり、外国人労働の増加が生じている。地域の視点に立って労働市場の動きを学ぶ。

6 回（11・12） 日本経済のこれから

日本の一人当たりGDPは世界順位を大きく落とした。地域は厳しく、書店が消え、流通が過疎化し、地域交通の撤退が増した。これからの視点、議論の方向を考える。

7 回（13・14） レポート発表と意見交換

期末レポートを発表し、日本経済の課題について討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は1回の講義につき4時間を標準とする。日頃から新聞、ニュース報道などを通じて、エビデンスと政策のポイントを整理することが望ましい。自身で経済社会データ（総務省e-Statなど）を検索し、図表化することを心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

講義用の教材と討議用資料を配布する。教材でメインとなるのは、参考書に示した小峰・村田（2025）と伊藤・星（2023）である。

【参考書】

井伊雅子（2024）『地域医療の経済学』慶應義塾大学出版会
伊藤隆敏・星岳雄（2023）『日本経済論』東洋経済新報社（原著（2020英書）の和訳）
小峰隆夫・村田啓子（2025）『最新日本経済入門（第7版）』日本評論社
近藤絢子（2024）『就職氷河期世代』中公新書
近藤克則（2022）『健康格差社会（第2版）』医学書院
日本経済新聞社地域報道センター編（2024）『新データで読む地域再生』
山田昌弘（2007）『少子社会日本』岩波新書
吉見俊哉（2019）『平成時代』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

輪読及び討議50％（10%×5）、レポート作成と発表50％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、「所得格差の現状をジニ係数を用いて学べて良かった。小泉政権は悪いと思っていたが、統計によるとそうでもなかった。」という意見があり、教材に取り上げた意義があった。格差を調べる対象は他にもあり、本年の第3回講義で取り上げる。「過去70年の姿をGDP統計で俯瞰するのは頭に入りやすく勉強になった」という声があり、これは第1回、第6回講義で続ける。経済動向を図で理解する方針はすべての講義で維持する。講師はかつて公務員であったので、政策決定における政府や政治家の思考について紹介するが、これは学生の関心が高く、継続する。経済学と数学の知識がなくとも授業は非常に分かりやすかったとの感想が寄せられたので、難しい数式を使わずに地域の視点で経済の仕組みを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表には、図表（パワポ・エクセル等で自身が作成したもの）を掲載してください。

【その他の重要事項】

経済学の予備知識はなくてもかまいませんが、新聞雑誌テレビなどで発信される経済ニュースが理解できることは必要です。

【Outline (in English)】

This course aims to build a perspective of local economies on important issues that have shaped the development of the Japanese economy. Some important issues to be tackled are the shrinking of local regions with gaps among people of health and education, and the changing labor market with foreign workers increasing. The class is provided with quantitative facts and economic explanations by economists, together with thoughts from other scholars, including sociologists. Students are expected to prepare for the class for four hours prior to and after the class. Students are graded with in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

人的資源管理論

石山 恒貴

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、変わりつつある日本の雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。

参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】

人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人的資源管理の歴史的背景、日本の雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくり上げていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。

また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2回(3・4)	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3回(5・6)	日本的雇用と職務、エンゲージメント	変化しつつある日本の雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する。エンゲージメントを多角的に分析する
4回(7・8)	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理理論の発展には戦略的人的資源管理理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。

5 回 (9・10)	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6 回 (11・12)	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7 回 (13・14)	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、講義だけでなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。

また講義で示す参考書については、積極的に読んでいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】

有沢正人・石山恒貴『カゴメの人事改革』中央経済社、2023年
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社、2020年
石山恒貴『越境的学习のメカニズム』福村出版、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回あたり5点満点で計35点満点）、②受講者による事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実務面の参考にさせていただくべく、豊富な事例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントなどPCを使うことがある。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.

Goal

At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management

Work to be done outside of class

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域活性化システム論

高尾 真紀子

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカッションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（RE S A S）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。

地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2020年度：都市と地方、2021年度：地域のウェルビーイング、2022年：関係人口と地域、2023年度：地域活性化と人づくり、2024年度：人口減少時代の地域活性化）。2025年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。

参考までに、以下に2024年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	講義 受講生によるディスカッション1 担当教員によるまとめ	イントロダクション 地域活性化政策の変遷
2回(3・4)	講義 受講生によるディスカッション2 担当教員によるまとめ	特定非営利法人 土佐山アカデミー事務局長 吉富慎作氏 「土佐山アカデミーにおける地域課題の解決法」
3回(5・6)	講義 受講生によるディスカッション3 担当教員によるまとめ	一般社団法人 スマートシティ・インスティテュート 専務理事 南雲岳彦氏 「市民の幸福度を高めるまちづくり」
4回(7・8)	講義 受講生によるディスカッション4 担当教員によるまとめ	一般社団法人 スマートシティ・インスティテュート 専務理事 南雲岳彦氏 第3回のまとめとグループワークの発表

5回(9・10)	講義 受講生によるディスカッション5 担当教員によるまとめ	愛知県新城設案建設事務所 道路整備課 課長補佐 あいち橋の会 事務局 宮川 洋一氏 「人口減少時代のインフラのあり方」
6回(11・12)	講義及び対談 受講生によるディスカッション6 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所 主席研究員 鴨志田武史氏 「地方創生とRE S A S(地域経済分析システム)」内閣府地方創生推進事務局 ご担当者 「地方創生の推進について」
7回(13・14)	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

前野隆司編著『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点(1/3)、授業への貢献(1/3)、発表の内容(1/3)を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

Zoomのブレイクアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【その他の重要事項】

※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。

※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO520Q2（地理学 / Geography 500）

文化地理学

増淵 敏之

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行っていく。

【到達目標】

到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらしているのかを理解し、説明することができるまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。なお、状況によって授業内容が変わることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/ Human Geography and Modern Society・Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/ About the position of geography in modern society and the concept of region
2回(3・4)	文化地理学入門/ Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3回(5・6)	食文化の地理学/ Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4回(7・8)	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students

5 回（9・10）

言語の地域性と景観の地域性/
Regionality of language and regionality of landscape

言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory

6 回（11・12）

習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them

儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

7 回（13・14）

ポピュラーカルチャーの地理学/
Geography of popular culture

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。状況によって授業内容が変わることもあります。

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】

森 正人、中川正（2022）「文化地理学ガイド」ナカニシヤ出版
森正人（2021）「文化地理学講義―＜地理＞の誕生からポスト人間中心主義へ」

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことを心がける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】

PC、DVDを使用することもある。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：金 16 - 18 時

【Outline (in English)】

When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx520Q2（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500)

都市空間論

上山 肇

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】

都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	(1)地域社会における都市空間 (2)都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2)都市化と都市問題
2回(3・4)	(1)都市空間の構成要素 (2)都市空間を実現するための手段	(1)建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2)計画、ルール、事業 等
3回(5・6)	(1)都市空間の形成プロセス (2)都市空間の規制手法1	(1)市民参加と合意形成 等 (2)ゾーニングの歴史と理論
4回(7・8)	(1)都市空間の規制手法2 (2)都市空間における景観	(1)ゾーニングと地区まちづくり (2)景観コントロール
5 回(9・10)	(1)都市空間の開発手法 (2)都市空間の再生	(1)都市再開発の仕組み 等 (2)中心市街地の活性化
6回(11・12)	(1)都市空間の評価手法 (2)事例研究1（事業）	(1)評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2)土地区画整理事業、再開発事業、密集事業 等
7回(13・14)	(1)事例研究2（制度） (2)事例研究3（テーマ型）	(1)地域地区、地区計画 等 (2)水辺空間の再生（国内・海外事例） 等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50％、発言20％、レポート30％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】

受講生と相談した上で、通常授業（1回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.

【Learning Objectives】

This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.

【Learning activities outside of classroom】

Please read the materials to be distributed.

【Grading Criteria /Policy】

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

TRS520Q2（観光学 / Tourism Studies 500）

観光社会学

北郷 裕美

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光社会学とは何か 社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

【到達目標】

現代社会における観光のあり方を再考し、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すべきか。言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの（中略）として理論化するもの（須藤・遠藤 2018）である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者に資することがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2回(3・4)	観光社会学とは何か	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える 近代化と観光社会学および社会現象としての観光の構造に関して考察する
3回(5・6)	現代観光の特徴	マス・ツーリズムの出現と弊害～現代観光の特徴～新たな観光形態 観光の多様化へ
4回(7・8)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	多様な観光形態を事例に観光について社会学的な視点を持つ
5回(9・10)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	文化、産業、家族、宗教等 多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する
6回(11・12)	現代観光の特徴：新たな観光形態 観光の多様性	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し 各々が観光に果たす役割や課題を検証する

7回(13・14) 観光施設の社会性 観光社会学総括 これからの観光（観光の文化装置として光を考える（湯布院を事例としての事例研究））

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあつて欲しい。

【テキスト（教科書）】

特に設けなが毎回作成配布する PPT を通して独自のノートを作成してほしい 文献等は都度紹介していく

【参考書】

須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018 年
遠藤 英樹、堀野 正人、寺岡 伸悟『観光メディア論』ナカニシヤ出版、2014 年
ジョン アーリ (著)、ヨナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014 年
その他 講義内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポート 70 点。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出いただくコメントシート又は対面による学生の感想・意見を授業に反映する

【Outline (in English)】

What is tourism sociology? The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology. Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society. Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域産業論

橋本 正洋

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、教授からのレクチャーで得た基本的知識を踏まえ、地方創生に実績のあるゲストを招いて話題提供をお願いし、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを旨とするために、どのような政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

【到達目標】

日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授による解説及びモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回(3・4)	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲストスピーカーからの話題提供を基に教授と指導のもとと討論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。
3回(5・6)	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

4回(7・8) 地域産業の動向②

ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

5回(9・10) 地域産業の動向③

ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。

6回(11・12) 地域産業の動向④

ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの話題提供を基に教授の指導の下議論する。担当教授によるイントロダクション（第一回講義）に続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲストスピーカーから担当教授の立ち合いのもと話題提供をお願いし、これを踏まえ担当教授のモデレートによるグループディスカッション及び全体討論を行う。当然のことながら全体討論のまとめが担当教員により行われる。これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

7回(13・14) まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。本授業の準備・復習時間は、合計で5時間を標準とする。授業の内容により、準備または復習に重点を置くことに注意。復習結果を課題レポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね50%）、プレゼンテーション（おおむね50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゲストスピーカーが遠隔で話題提供を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

【その他の重要事項】

担当教員が資料を事前に提示するので、予習をしておくこと。

【Outline (in English)】

In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical presentation and sufficient discussion under professor's moderation. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization. Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

中小企業論

黒澤 佳子

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
- ②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
- ③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2回(3・4)	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3回(5・6)	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4回(7・8)	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。

5回(9・10)	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6回(11・12)	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7回(13・14)	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300円）

【参考書】

井上善海・黒澤佳子・田中克昌（2024）『事業創造入門』中央経済社（2,300円）

井上善海・遠藤真紀・山本公平（2022）『企業経営入門』中央経済社（2,200円）

中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）

その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の3つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（50%）、講義内で課す課題レポート（50%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

CSR論

佐々木 恭子

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Corporate Social Responsibility (CSR) は欧州連合が21世紀の新しい政策の1つとして打ち出したことをきっかけに全世界に広がった概念であり、変化し続ける社会の中での企業と社会の関係性を問うものである。本授業ではCSRの基礎を学んだ後に、サステナビリティ、CSV (Creating Shared Value)、ESG、SDGs、パーパスなど、関連する領域に対する理解を深めることで、これらの現象について考察し、事例を用いた実践的な学びを提供する。

【到達目標】

CSR関連の様々な言葉に踊らされることなく、それらの本質的な意味を考察するための視座を身につけることで、企業と社会/ステークホルダーとの関係や各企業の取り組みを背景とともに分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。ケースを通じて、企業と社会の関わり方について実践的な学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション ～CSRとは何か～	・授業の目的と進め方 ・CSRの定義 ・ステークホルダー論
2回(3・4)	サステナビリティとCSR	・サステナビリティの定義 ・SDGsと企業活動
3回(5・6)	CSRと戦略・インパクト	・CSRとCSV ・ESG投資
4回(7・8)	CSRとレポーティング	・マテリアリティとは何か ・レポーティングの枠組みと制度化
5回(9・10)	パーパスとCSR	・企業理念とパーパス ・B Corpムーブメント ・創発型責任経営
6回(11・12)	中小企業とCSR	・社会的企業とCSR ・日本国内の事例
7回(13・14)	CSRへの批判とこれからのCSR	・CSRに関する4つの批判 ・CSRの未来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。

(2) 授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

國部克彦. (2017). CSRの基礎—企業と社会の新しいあり方. 中央経済社

Blowfield, M., Blowfield, M., & Murray, A. (2019). Corporate responsibility. Oxford University Press, USA.

【成績評価の方法と基準】

授業参加・授業貢献（40%）、期末レポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。

【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘などに伴い、授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も、担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】

Corporate Social Responsibility (CSR) is a concept that has become popular worldwide since the European Union launched it as one of its new policies for the 21st century. It questions the relationship between companies and society in a constantly changing society. In this class, students will learn the fundamentals of CSR and gain a deeper understanding of related areas such as sustainability, CSV (Creating Shared Value), ESG, SDGs, and Purpose. The class will discuss these trends and provide practical learning through case studies.

ECN520Q2（経済学/Economics 500）

ウェルビーイング論

高尾 真紀子

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングを実現しながら生活し働くために、地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】

ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、EBPM（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な知識や考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップやグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2回(3・4)	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3回(5・6)	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4回(7・8)	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5回(9・10)	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6回(11・12)	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7回(13・14)	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】

内田由紀子『これからの幸福について 文化的幸福観のすすめ』2020年、新曜社
大竹文雄、白石小百合、筒井義郎『日本の幸福度 格差・労働・家族』2010年、日本評論社
小塩隆士『「幸せ」の決まり方 主観的厚生と経済学』2014年、日本経済新聞社
キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013年、日本経済新聞出版社
経済協力開発機構『OECD幸福度白書2—より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015年、明石書店
島井哲志『幸福の構造—持続する幸福と幸せな社会づくり あなたの幸せは何に左右されているか？』2015年、有斐閣
ブルーノ・S・フライ（白石小百合訳）『幸福度を測る経済学』2012年、NTT出版
前野隆司『幸せのメカニズム—実践・幸福学入門』2013年、講談社現代新書
矢野和男『文庫 データの見えざる手 ウェアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018年、草思社文庫
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021年、草思社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年、光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への参加・貢献）（30%）、各回の課題（20%）、最終レポート（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いやワークショップによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】

In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being, taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ECN520Q2 (経済学 / Economics 500)

実証分析入門

柿野 成美

備考 (履修条件等)：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイント把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】

1. 実証研究論文の構成と作法を理解すること、2. 先行研究の分析結果の読み方を習得すること、3. 各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意した論文に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回(3・4)	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に 応じた実証分析論文を収集する。
3回(5・6)	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回(7・8)	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック重回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5回(9・10)	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6回(11・12)	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7回(13・14)	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌 (査読論文が望ましい) にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト (教科書)】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】

浦上昌則・脇田貴文 (2021)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版』東京図書

小塩真司 (2021)『第3版 SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで』東京図書

小塩真司 (2021)『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回、パソコンを持参する。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

MAN520Q2 (経営学 / Management 500)

雇用政策研究 (マクロ)

石山 恒貴

備考 (履修条件等)：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般(マクロ)について検討する。少子高齢化、グローバル化、知識基盤社会化のなかで、雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。

様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または、これらに興味のある人を念頭に、雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する。ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも、雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】

雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本の雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義を進めたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	ーそもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思いついてる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2回(3・4)	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうか？
3回(5・6)	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
4回(7・8)	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となりが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える

5回(9・10) 非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方

非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える

6回(11・12) 兼業・副業と雇用によらない働き方

兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。

7回(13・14) ミドル・シニアの働き方とまとめ

日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。

1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書を使用しないが、以下に掲げる7冊から1冊を選び、書評レポートをお願いする(どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように)。このほか別途に挙げる主な参考書、授業でその都度、必要に応じて紹介する文献などを参照していただく。また、毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定。

1. ビーター・キャベリ (若山由美訳)『雇用の未来』日本経済新聞社,2001年
2. 清家篤『雇用再生—持続可能な働き方を考える』NHK出版,2013年
3. 山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会, 2016年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017年
5. 川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会, 2021年
6. 小熊英二『日本社会のしくみ』講談社,2019年
7. 西村純子・池田心豪『社会学で考えるライフ&キャリア』中央経済社,2023年

【参考書】

- ・労働経済白書
- ・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点(1回当たり5点満点で計35点満点)、②2500字以上の長さの科目レポートの得点(65点満点)で、両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する。ただし、これ以外に、必須の小レポートとして、書評レポートを課す。終了時に提出を求める科目レポートは、授業内容を自分なりに消化し、できるだけ自分の最終課題(修士論文テーマ)に引きつけて書くことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

キャリア理論と統計分析

佐藤 雄一郎

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文を執筆する際にアンケートなどの量的調査を実施することを想定し、調査の実施方法、設問の作成方法、分析の手法、結果の読み取り方など、基本的な知識・スキルを学ぶ。また、最終的に量的調査を実際に行えるようになることを目標とする。学習の題材としてはキャリア理論に関する調査や論文を使用するが、あくまでも統計の理解を深めるための例示として用いるものである。そのため、キャリア理論以外のテーマを扱う場合でも問題なく学習できる。

【到達目標】

1. 量的調査（アンケートの設計、実施、分析、結果の解釈）の一連の手法を理解し、自身の研究に活用できるようになる。
2. 単純集計やクロス集計、t検定、分散分析、回帰分析などの基本的な統計手法を正しく用いて結果を読み解き、批判的に検証できるようになる。
3. 統計分析を活用した論文や修士論文を理解・評価し、自分の研究テーマにも応用できる視点を身につける。
4. キャリア理論を題材とした調査事例を参照することで、量的調査の実践的なプロセスを把握し、学んだ統計手法を幅広いテーマに応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業では、量的調査に関する基本事項を解説するとともに、授業支援システムを用いて受講者それぞれの研究テーマや調査内容を共有し、フィードバックを行う。さらに、グループワークを実施し、キャリアに関する調査や論文、量的調査を活用した修士論文の事例を解説することで、学習内容への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーション / 量的調査実施の全体像	オリエンテーションでは、本授業の到達目標や成績評価の方法、授業の進め方を概説する。講義では、量的調査を実施する際の全体像を示し、本授業の方向性を提示する。
2回(3・4)	量的調査で実施できること / 分析方法の全体像	量的調査を行うことで、修士論文執筆においてどのようなことが可能になるのかを説明する。あわせて、代表的な分析方法の種類と、それぞれで明らかにできることを示す。
3回(5・6)	アンケート調査の作り方	実際に行われたアンケート調査を例に取り、設問の作成手順や注意点について解説する。
4回(7・8)	統計の読み方・使い方① / 単純集計、クロス集計、平均値、標準偏差など	量的データを分析する上で基本となる単純集計やクロス集計の読み取り方を中心に学ぶ。さらに、平均値などの代表値や分散、標準偏差についても理解を深める。

- 5回(9・10) 統計の読み方・使い方② / 相関、 χ^2 検定、平均の差の検定（t検定、分散分析）など
- 6回(11・12) 統計の読み方・使い方③ / (重) 回帰分析など
- 7回(13・14) まとめ / 量的調査を用いた修士論文を読む
- 異なる対象群の比較を主眼に置き、統計的な差異を明らかにするための分析方法（主に多変量解析）を学ぶ。相関や χ^2 検定、t検定、分散分析などを扱う。原因と結果の因果関係を想定した分析手法（回帰分析）を中心に解説する。単回帰分析や重回帰分析を通じて、仮説の検証方法を理解する。これまでの内容を総括し、量的調査を用いた修士論文の具体例を確認することで、今後の修士論文執筆に向けた指針を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から論文や書籍に触れることが望ましい。授業で配布した論文や参考書をはじめ、関連する論文や書籍を読んでおくこと。本授業では、準備学習 1.5 時間、復習時間 1.5 時間を標準とする。統計学の知識に不安がある場合は、以下の本を事前に読んでおくことを推奨する。

・小島寛之『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社、2006 年

【テキスト（教科書）】

授業では、レジュメと本授業用のテキストを配布し、これらをもとに進行する。必要に応じて、各テーマに関連する論文や調査報告書も配布する。たとえば、キャリア理論に関する文献として、キャリアレジリエンス、キャリアアダプタビリティ、キャリア焦燥感、キャリアプラトール、キャリア自律などを扱う予定である。ただし、本授業はキャリア理論自体を学ぶことを目的とするものではなく、あくまでも量的調査を実施する際の参考として、それらの論文を用いるものである。したがって、人的資源管理やキャリア論の事前知識がない院生でも問題なく履修できる。

【参考書】

- ・渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2018 年
- ・宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社、2014 年
- ・石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年
- その他、必要があれば授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点(授業への参加、グループワーク、課題) 30 %
- ②最終レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当するため、現段階では特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・最終レポートは手書きではなく、原則として Word で作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
- ・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
- ・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【Outline (in English)】

In this class, students will acquire the fundamental knowledge and skills necessary for conducting quantitative research, including how to implement surveys, formulate questions, analyze data, and interpret findings. The overall goal is to enable students to incorporate quantitative research into their master's theses. The course will use surveys and papers on career theory as illustrative materials to deepen students' understanding of statistics; however, these examples are not restrictive. Therefore, students can still derive significant value from the class even if they plan to research topics other than career theory.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

キャリア政策研究

岸田 泰則

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中の不確実性が高まるなか、個人のキャリア・マネジメントはますますその価値を高めている。本授業では、個人のキャリア・マネジメントについての理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。授業では、主に組織行動論、キャリア心理学の概念を扱う。

【到達目標】

本授業では、個人のキャリア・マネジメントに関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えるきっかけを得ることができる。さらには、キャリア・マネジメントの先行研究（質的研究）を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
- ・ Evaluate previous studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも学生が分担して、先行研究（質的研究）をレビューし、その結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半でグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーション	授業の目的・到達目標、そして、先行研究のレビューの仕方について説明する。中間発表のスケジュールを確定する。
2回(3・4)	ゲスト講演	キャリア政策の事例について、ゲスト講師から説明する。その後、ディスカッション、担当講師によるまとめを行う。
3回(5・6)	若年者のキャリア・マネジメント	若年者のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
4回(7・8)	ミドル・シニアのキャリア・マネジメント	ミドル・シニアのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
5回(9・10)	女性のキャリア・マネジメント	女性のキャリア・マネジメントについての理解を深める。
6回(11・12)	フリーランスのキャリア・マネジメント	フリーランスのキャリア・マネジメントについての理解を深める。
7回(13・14)	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア・マネジメントとまとめ	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア・マネジメントについての理解を深める。授業全体のふりかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として事前に指定された先行研究（論文）を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、課題は分担として、授業7回の中で1回は担当するようにする。本授業の準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間を標準とする。

Students will be expected to read the previous study, review them from your own original perspective, and present your findings. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

各回の授業において、授業資料と論文（質的研究）を提示する。

【参考書】

近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文解体新書—論文の読み方・まとめ方活用ガイド』ミネルヴァ書房 2022年

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループ討議） 30 %
- ②各自が担当する発表（中間発表） 30 %
- ③最終レポート 40 %

最終レポートとして、キャリア・マネジメントに関わる先行研究のレビューを

3000字程度のレポートとして提出する。

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 30%, mid-term report 30 %, and 40% final report.

【学生の意見等からの気づき】

授業の都度、学生から多くの発言が出るように工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、授業時にPC等を利用することは構わない。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of measures to encourage career management of workers. In this course, we will consider the meaning of work consistently.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域雇用政策事例研究

石山 恒貴

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。

地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。

地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】

事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2回（3・4）	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJターを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3回（5・6）	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4回（7・8）	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5回（9・10）	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6回（11・12）	地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。

7回（13・14） 地域雇用の対比－地域雇用の諸事例の対比と検討（その3） 地域雇用の未来とまとめ

地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べる（その成果を授業中に発表していただく）
2. 地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019年

石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々：サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社 2024年

【成績評価の方法と基準】

①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみに行うかは任意。

【その他の重要事項】

各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

人材育成論

石山 恒貴

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】

不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなっている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ、日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。

各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。

参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2回(3・4)	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3回(5・6)	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4回(7・8)	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5回(9・10)	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。

6回(11・事例発表

12)

7回(13・事例発表および人材

14) 育成の未来とまとめ

受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。

受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】

労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016年 石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018年 石山恒貴『定年前と定年後の働き方』光文社、2023年

【成績評価の方法と基準】

評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1回当たり5点満点で計35点満点）、②各自が分担する事例発表の得点（65点満点）で、両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】

理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】

受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentation of case study assigned by each student: 65%, in class contribution: 35%

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域コミュニティ論

中島 由紀

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域コミュニティは多様な使われた方があり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていき、最後は最新事例をみながら考察を深める。

▼前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。

▼後半は、今日的「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、コロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与え、この変化はコミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。論点となるのはネット社会と新しいコミュニティ形成についてである。この点について考えていく。

▼最終回の2回は、ここ数年で激変している日本社会。これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

【到達目標】

①自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。

②自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。

以上の2点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。

・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方（主にクロス集計、多変量解析）について触れる時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。

・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。

・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ 一理論の系譜 ○近代から現代の変化	R.M. マッキーバー、F. テンニエス、ジンメル、ワース、バージェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。 その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。

2回(3・4) ○近代から現代都市論からみたコミュニティ
○日本の共同体から都市化の変化

第1回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。

3回(5・6) ○コミュニティ政策の変遷
○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み

1970年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。本回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。

4回(7・8) ○コミュニティ参加の問題
○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題

日本のNPOや公共を担う団体組織の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。ここから日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動にうつすにはどうしたらいいのか。今日的コミュニティへの「参加」の問題を扱う。

5回(9・10) ○日本人の生活と価値観の変化
○「ウチ/ソト」「タテ/ヨコ」社会、「信頼と安心」
○ネット社会がもたらしたコミュニティの変化

日本の生活様式、価値観はどのように変化してきたか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。旧来型の地縁型コミュニティの特性は何か、その後のネット社会とコロナがあたえたコミュニティへの影響。今日的な地域コミュニティの変化の問題を考えていく。

6回(11・12) ○「新しい地域コミュニティ」を考える
○関係人口、DAOといった新しい形のコミュニティ形成を考える

2020年以降のコロナ禍は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害や、働き方が多様になり副業社会へと移行してきている日本。私たちの生活環境はここ数年で激変してきている。この社会変化の中で、コミュニティの存在意義を考える。これから求められているコミュニティの在り方は？ 特に、最近の新しいコミュニティの形として、関係人口創出事業やDAOについても触れる。第6回は、これらの変化を念頭にグループに分かれてディスカッションし、各グループが描く「新しい地域コミュニティの在り方」をまとめていく。

7回(13・14) ○コミュニティの行方
○新しいコミュニティの形はどこへ向かうのか？

第6回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

以下の【参考書】の中で「●」は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

【参考書】

《必読》

- 『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
- 『共同体の基礎理論』内山節,2010年（農山漁村文化協会）
- 『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）
- 『都市コミュニティの社会学』中村八朗,1973（有斐閣双書）
- 『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
- 『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
- 『都市の共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
- 『われらの子ども ―米国における機会格差の拡大』ロバート・D・バットナム,2017（訳（創元社）
- 『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
- 『集団と組織の社会学―集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
- 『サードプレイス 「コミュニティの核になるとびきり心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ,2013（みすず書房）

【成績評価の方法と基準】

- ・ 授業の参加とコメントシートの提出（60%）
- ・ 6回目のグループワーク&7回目の発表（20%）
- ・ 最終レポート提出（20%）

※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

【学生の意見等からの気づき】

- 今日の「コミュニティ問題」の扱い方について

コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日の「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。

- 毎年、講義以外に調査方法として多くの学生が良かった点で挙げてくれるのは以下の3点がある。実際にもらったコメントと併せて紹介する。

- ①コミュニティの歴史と年表について「コミュニティの概念を歴史を遡り各時代での意味と意義を考える行為は非常に参考になった。年表を作成して考えを整理する方法も、別のテーマでも応用できる」
- ②文献の探し方「国会図書館や公文書検索について「論文作成に非常に参考になった」
- ③統計データの探し方について「e-statは少しいじったことがあったが、具体的なサーチ方法や入口を聞けて非常に役に立ちました」

【学生が準備すべき機器他】

授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードし一読した上での受講をお願いする。

【Outline (in English)】

The first half organizes the classic concept of community theory and its transition. From there, we will look at how it was treated in Japanese society. The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community". By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
- ・ To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
- ・ Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520Q2（経済学/Economics 500）

消費者政策論

柿野 成美

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、1. 消費者被害とその対応、2. 消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、3. SDGs達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2回(3・4)	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
3回(5・6)	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費生活相談や自立支援策の現状と課題について学ぶ。最後に担当教員によるまとめを行う。
4回(7・8)	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。最後に担当教員からまとめを行う。
5回(9・10)	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
6回(11・12)	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7回(13・14)	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連する諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】

『日本の消費者政策—公正で健全な市場をめざして—』樋口一清・井内正敏、創成社、2020年、2500円

【参考書】

『くらしの豆知識2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件 歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015年

『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】

レポート課題：50%、平常点：50%

毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSI520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

生活政策論

柿野 成美

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】

地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回(3・4)	地域課題解決に向けたソーシャルデザイン（ゲストスピーカー：田中美帆氏）	地域における生活課題解決にデザインを活用したソーシャルインクルージョンや価値創造について検討する。最後に担当教員によるまとめを行う。
3回(5・6)	つながりを創るコーディネーターの役割	地域の関係者をつなぐコーディネーターの役割について、消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回(7・8)	地域における生活政策の実務（ゲストスピーカー）	地域で生活政策に関わる実務家を招聘し、具体事例を理解する。
5回(9・10)	生産者と消費者をつなぐ学習プログラム「SDGs調査隊」を事例として	地元企業と小学生親子を対象としたプログラム「SDGs調査隊」を事例として、事業者と消費者の共創に向けた学習プログラム及び地域における消費生活の在り方について議論する。
6回(11・12)	発表・討議	生活課題を具体的に設定し、その処方箋について発表・討議する。
7回(13・14)	発表・討議・まとめ	生活課題を具体的に設定し、その処方箋について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関する政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

○政府の白書
内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」
厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
消費者庁「消費者白書」等
○『消費者教育の未来—分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019年

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度（50％）、最終レポート（50％）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

ARSI520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

男女共同参画政策論

池永 肇恵

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー（社会的・文化的な性別）のバイアスに気付き、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわらず能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ、エキティ&インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終日のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2回(3・4)	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DVや性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3回(5・6)	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4回(7・8)	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。
5回(9・10)	地域社会/防災	地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。

- 6回(11・12) 国際動向と残された課題/最近のトピック SDGsを含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AIやコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。
- 7回(13・14) まとめ、レポート発表・ディスカッション これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

内閣府「男女共同参画白書」
 イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT出版 2018年
 キャロライン・クリアド＝ベレス『存在しない女たち』河出書房新社2020年
 マシュー・サイド『多様性の科学』ディスカバー・トゥエンティワン 2021年
 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019年
 山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書 2019年
 牧野百恵『ジェンダー格差』中公新書 2023年
 小西一禎『妻に稼がれる夫のジレンマ』ちくま新書 2024年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）、平常点（30%）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

実践地方行政論

池永 肇恵

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民の暮らしに身近な存在である自治体は、国が決定した法制度の下で、地域の実情を踏まえて施策を推進する現場であり、日本が直面する人口減少、少子・超高齢化などの課題に対して、最前線で取り組みを進めている。当授業では、地方行政が直面する課題を採り上げ、国の施策や先進事例に触れながら、自治体の様々な取組を学ぶ。

【到達目標】

生活者の目線で地方行政の課題と対応する取組を考察することで、自身が居住する、あるいは関心ある地域の課題を発見し、持続可能な地域づくりに主体的に関わる視点や知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地方行政に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。

各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。

最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。

受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、初回ガイダンスと最終回のレポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	導入/人口減少の影響	地方公共団体の種類、国と地方公共団体の役割分担、人口減少のなかでの自治体運営の方向性を学ぶ。
2回(3・4)	財政/健康医療福祉	地方公共団体の財政の特徴や課題、介護・高齢化対応や健康増進、地域医療の課題を学ぶ。
3回(5・6)	商工・労働/農林水産業/地域公共交通	産業振興としての企業誘致、就労支援策の特徴、農林水産業のスマート化など担い手不足への対応、地域インフラとして重要な地域公共交通の動向を学ぶ。
4回(7・8)	生活インフラ/防災	老朽化や人口減少に対応したインフラの再構成、災害時、防災における行政の役割や取組を学ぶ。
5回(9・10)	環境問題/文化・スポーツ・多様性への対応	ごみ行政、再生可能エネルギー、地域の特性を生かした文化・スポーツ、国籍・性別・障害などの多様性に配慮した取組を学ぶ。
6回(11・12)	住民参加/デジタル化	住民参加の意義や形態、地方議会の状況、行政手続や業務面などにおける自治体のデジタル化の動きを学ぶ。

7回(13・14) まとめ、レポート発表・ディスカッション
これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持った地域の課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュース、自治体の広報などに接し、どのような地域の課題があり、自治体はどのような取組をしているか、課題と対応に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】

総務省「地方財政白書」
大森欄・大杉寛「これからの地方自治の教科書」第一法規 2019年

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）、平常点（30%）

毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。

受講生自身の居住地あるいは関心のある地域における課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoomが利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

This course introduces challenges faced by local governments and their policy choices while referring to national government policies and examples of advanced cases.

ARSx520Q2（地域研究（その他） / Area studies(Others) 500）

まちづくり事例研究

上山 肇

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】

フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながらいっていくことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それら表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2回(3・4)	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3回(5・6)	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4回(7・8)	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5回(9・10)	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6回(11・12)	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7回(13・14)	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象地に関する資料収集とフィールドワークを行います。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、作品30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】

This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSk520Q2（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

比較都市事例研究

伴 宣久

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸から現代までの東京における各時代の都市政策の背景、課題、解決策を多角的に学びます。受講生は、ソフト・ハードの都市政策の変遷を学び、それを参考に自身で選んだ都市を、経営層になったつもりで特定のテーマに着目し今後の社会状況に変化に応じた新たな都市政策を提案します。

【到達目標】

- ・江戸から現代までの東京の都市政策を時系列で理解する。
- ・都市政策の課題解決策やその影響を多面的に分析する能力を身につける。
- ・将来の社会状況を考慮した政策提案を行うスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

江戸から東京の都市政策の変遷の歴史を講義し、その後、受講者によるディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	オリエンテーション
	講義（江戸時代の都市政策とその背景）	江戸の都市政策の特徴 ディスカッション
2回(3・4)	講義（明治初期の都市政策と東京の近代化）	東京の近代都市への転換 ディスカッション
3回(5・6)	講義（関東大震災後の復興と都市設計）	災害復興を通じた都市政策の進化 ディスカッション
4回(7・8)	講義（戦後復興と高度経済成長期の都市政策）	経済成長による都市政策の変革 ディスカッション
5回(9・10)	事例研究（特別区のまちづくり）	特別区制度と東京のまちづくり 政策の変遷 課題中間発表
6回(11・12)	講義（バブル崩壊後の都市政策と課題）	バブル崩壊の教訓と都市再生 ディスカッション
7回(13・14)	講義（今後のまちづくりの課題）	人口減少・高齢化・都市インフラの再編・サステイナブルなまちづくり 最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習 3時間/各回 21時間

調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク 8時間

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

東京の都市づくりのあゆみ（東京都）。

江戸・東京の「地形と経済」のしくみ（鈴木浩三、日本実業出版社）。
東京都市計画物語（越沢明、ちくま書房）。東京都市計画の遺産（越沢明、ちくま書房）。

実践・自治体まちづくり学（上山肇編著、公人の友社）。その他については必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、発言20%、作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター製作）30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生が作品（課題として取り上げる地域に関するパワポによるポスター）製作に時間がさけるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, Students will learn the background from Edo to modern Tokyo and challenges and solutions of the urban policies of each period from various perspectives. Students will also learn about the changes in software-hardware of the city policies and use them as a reference to propose new city policies that will change according to future social conditions by focusing on specific themes with the intention of becoming a mayor.

[Grading Criteria /Policy]

Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Work production(30%).

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

コミュニティメディア論

北郷 裕美

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会(特に地域社会)の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティメディア、市民のメディアを捉えるべきか、を考える。

【到達目標】

本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル(規範モデル)を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したQ & Aやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在(失われた空間の意味するところ)：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2回(3・4)	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3回(5・6)	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画(Public Access)を視聴する：米国映画(Public Access)についての意見交換と解説
4回(7・8)	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画(コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品)を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説

5 回(9・10) 動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能 公共性指標

6 回(11・12) メディアと防災～コミュニティ放送を事例に

7 回(13・14) コミュニティ FM 放送の組織経営課題「動画視聴講義」メディアリテラシー

日本のコミュニティ FM 放送を取材したNHKドキュメンタリーほか動画視聴 意見交換と解説：北海道のコミュニティ FM 放送調査を事例に解説
実際に起きた様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面や リスク最大値からの教訓を考える
コミュニティ FM 放送の組織経営の在り方と課題：コミュニティメディアの将来的な課題を探る
テロ事件をテーマとした映像を用いてメディアリテラシー全般について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあつて欲しい。

【テキスト（教科書）】

・『コミュニティ FM の可能性：公共性・地域・コミュニケーション』（北郷裕美著 青弓社）
・『市民が育む持続可能な地域づくり』（北郷裕美（第1章）共著 同時代社）

【参考書】

・『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』（北郷裕美 共著 晃洋書房）
・『新・公共経営論』（北郷裕美 共著 ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート試験 70 %を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で反映しディスカッションを深める。

【学生が準備すべき機器他】

講義は原則としてPPTを用い、毎回PC機器、視聴覚機器(DVD等)を使ったスクリーン・プレゼンテーション型の講義を行う。受講生がPCを用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

都市文化論

増淵 敏之

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】

都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では1960年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは1980年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテキスト分析型の都市論、そして1990年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2回(3・4)	近代における都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3回(5・6)	「考現学入門」解説とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device

4回(7・8) 百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo

都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo

5回(9・10) 東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels

文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels

6回(11・12) アジアの諸都市/Asian cities

アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila

7回(13・14) 都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities

異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。状況に応じて授業内容の変更もあります。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用

【参考書】

授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】

PC.DVDの使用もある。

【その他の重要事項】

多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月16～18時。

【Outline (in English)】

Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinarily, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

SOC520Q2（社会学 / Sociology 500）

文化社会学

宮入 恭平

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化社会学は、経済学、哲学や政治学からメディア研究やカルチュラル・スタディーズにいたるまで、さまざまな領域を横断する学問分野です。したがって、学際的な視座が必要になります。この授業では、基本的な理論を理解しながら、社会科学の文脈から文化を分析するための方法を学びます。

【到達目標】

修士論文を書くために必須となる、論理的かつ批判的な視座からの思考を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は資料と教科書を使って進めます。1回につき2コマ分の授業をおこないます。なお、資料の配布、およびリアクションペーパーとレポートの提出には「学習支援システム」を利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	この授業について／教科書 ／「結合と分離」 Part1
2回(3・4)	「アイデンティティ」、 「嘘と秘密」	教科書Part1
3回(5・6)	「羨望と嫉妬」、「楽し みと退屈」	教科書Part2
4回(7・8)	「病と死」、「コミュニ ティ」	教科書Part2、Part3
5回(9・ 10)	「仕事と生活」、「異文 化コミュニケーション ン」	教科書Part3
6回(11・ 12)	「メディア」、「ネット 社会」	教科書Part4
7回(13・ 14)	「ステレオタイプ」／ まとめ	教科書Part4／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布資料やノートを使って、授業内容の確認をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺潤（監修）『新版 コミュニケーション・スタディーズ』世界思想社、2021年

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

質問など学生からの声に耳をかたむけ、建設的に反映させます。

【その他の重要事項】

・教科書が必須になるので必ず用意してください。
・資料の配布、およびリアクションペーパーとレポートの提出は「学習支援システム」を利用します。

【Outline (in English)】

Sociology of culture is a discipline which includes many different fields from economics, philosophy and politics to media studies and cultural studies. Therefore, an interdisciplinary perspective will be needed. In this course, we will discuss about the relationship between culture and society while understanding the basic theories. The aim of this course is to help students acquire how to analyze “culture” in the context of social science.

TRS520Q2（観光学 / Tourism Studies 500）

観光開発論

北郷 裕美

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】

この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス 観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2回(3・4)	観光開発における功と罪 地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3回(5・6)	サステナブルツーリズム	現在盛んに語られているSDGsについて再考し、それと観光の関連を通して「サステナブルなツーリズム」の意義、意味を考える
4回(7・8)	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5回(9・10)	観光産業の成り立ち	「旅行業」の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する
6回(11・12)	交通機関と宿泊機関を概観する	観光開発の主軸となる、交通機関と宿泊機関の全体を総括する

7回(13・14) ホスピタリティと観光 これからの観光行政を考える

「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える 地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、観光政策を取り巻く現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあつて欲しい。

【テキスト（教科書）】

特には設けないが毎回作成する PPT を通して独自のノートを作成してほしい 文献等はその都度紹介していく

【参考書】

以下一部ではあるが紹介する
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざしー現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995 年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学 2.0ー拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018 年
長谷谷政広『観光振興論』税務経理協会 1998 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポート 70 点

【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】

With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism. In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry. Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life. Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

BSP520Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

フィールドワーク論

北郷 裕美

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、フィールドワーク（現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に「質的調査」に軸足を置く予定である。

【到達目標】

フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれらをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、映画、DVD動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、ワークショップも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス フィールドワークの基本①	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2回(3・4)	フィールドワークの基本②	エスノグラフィーを基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3回(5・6)	フィールドワーク事例①	『映画視聴から学ぶ』 理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4回(7・8)	フィールドワーク事例②	多様なフィールドワーク事例より、参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5回(9・10)	フィールドワークの実践的なリアリティ	オンラインによる調査・フィールドワークについて考える
6回(11・12)	CASE STUDY(事例をもとに学ぶ)	フィールドワークの分析手法について『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著）』を用いて多角的に解説する
7回(13・14)	総括 ワークショップ	グループ型のワークショップ形式で具体的なフィールドワーク事例を基に、課題や改善点を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあつて欲しい。

【テキスト（教科書）】

特には設けないが毎回呈示するPPTを通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】

佐藤郁也(2008)「質的データ分析法—原理・方法・実践」新曜社

佐藤郁哉（1984-2011）『暴走族のエスノグラフィー』新曜社

ほか多くの参考文献は講義中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork). This lecture will basically focus on qualitative research.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TR520Q2（観光学 / Tourism Studies 500）

観光マーケティング論

青木 洋高

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。

【到達目標】

観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。

講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。なお、その場合も担当教員が取り纏めを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
2回(3・4)	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
3回(5・6)	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。LCCとFSA、プライシング戦略など。
4回(7・8)	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
5回(9・10)	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
6回(11・12)	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
7回(13・14)	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジメを中心に授業を進める。

【参考書】

講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%。

【学生の意見等からの気づき】

各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【その他の重要事項】

一部講義をオンラインで行う場合がある。

【Outline (in English)】

“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域経営戦略論

橋本 正洋

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、教授からの俯瞰的な講義に加え、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家ゲストに迎えて話題提供をお願いし、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務（政策立案・運営、企業戦略）に活かすことを目指す。

【到達目標】

具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からの話題提供を受け、担当教授の指導の下グループディスカッション及び全体討議を行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。

当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回(3・4)	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を担当教授の指導の下確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回(5・6)	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの話題提供を基に担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回(7・8)	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの話題提供を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を担当教授の指導の下行う当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

5 回（9・ 地域経営戦略③ 10）

地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての話題提供に基づき担当教授の指導の下議論する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

6 回（11・ 地域経営戦略④ 12）

地域の様々なデータの分析手法について専門家からの話題提供を受け担当教授の指導の下演習を行う。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

7 回（13・ まとめ 14）

担当教授の指導の下、一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。また毎回課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

教員、ゲストから資料を提示する。

【参考書】

授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね50％）、プレゼンテーション（おおむね50％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションへの積極的参加が重要。地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】

一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

【Outline (in English)】

In this lecture, having lectures of landscape for regional policy strategy by professor, I welcome leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. I consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy). Naturally, the overall discussion will be summarized by the teacher in charge.

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域イノベーション論

橋本 正洋

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素（国、自治体の関与）がある学生には履修を推奨する。

ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

【到達目標】

政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2回(3・4)	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する。
3回(5・6)	イノベーション政策1	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4回(7・8)	イノベーション政策2	大学等技術移転促進法制定（TLO法）、99年：産業活力再生特別措置法制定（日本版バドール）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5回(9・10)	イノベーション政策3	国立大学法人化・大学改革
6回(11・12)	イノベーション政策4	産業クラスター・地域イノベーション政策
7回(13・14)	イノベーション政策5	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

十分な準備のもと、与えられた課題についてプレゼンを行うとともに、講義後課題レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施の場合およそ50%）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン用のパソコン等を用意すること。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general. Students who have policy elements(involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course. Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

新産業創出論

小具 龍史

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第4次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。新産業の創出には、新規事業の開発が極めて重要となります。本講義では、新規事業開発手法である事業アイデア創出手法および事業性評価手法について習得します。

【到達目標】

新産業の創出に必要な新規事業の開発に関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解するとともに、当該理論と実際に社会の中で実践されているイノベーションやマーケティングの手法を結びつけて理解できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とグループディスカッション、発表（プレゼンテーション）等により実施します。授業内容に関する質問は、リアクションペーパー等により受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。※授業回によって完全対面と完全オンラインの日があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	新規事業開発プロセスと実施事項	本講義の目的・進め方および新規事業開発プロセスと実施事項についてレクチャーを行う。
2回（3・4）	事業アイデアの創造	事業アイデア創造に係る代表的な手法（フレームワークやツール）の紹介およびレクチャーを行う。
3回（5・6）	事業コンセプトの検討	事業アイデア創出手法を用いた事業コンセプトの検討および詳細化ワークを行う。
4回（7・8）	事業コンセプトの発表とブラッシュアップ	事業コンセプト案の発表（プレゼンテーション）および振り返り、ブラッシュアップワークを行う。
5回（9・10）	一次スクリーニングによる事業性評価	事業性評価手法（一次スクリーニング）のレクチャーおよび事業コンセプト案の評価とブラッシュアップワークを行う。
6回（11・12）	二次スクリーニングによる事業性評価	事業性評価手法（二次スクリーニング）のレクチャーおよび事業コンセプト案に関する事業性評価（Business Model Canvas、BMO法による評価）とブラッシュアップワークを行う。
7回（13・14）	事業性評価結果の作成と発表	二次スクリーニング結果の作成と最終事業コンセプト案の発表（プレゼンテーション）、振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用いて事前学習をしておいて下さい。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での平常点（講義内での発言・グループディスカッション・プレゼンテーションへの貢献度）50％、講義内で課す課題レポート50％により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社にて経営コンサルタントとしての実務経験を持つ教員が、その経験を基に新規事業開発について解説する。※本講義はAL(Active Learning)形態による授業である。

【Outline (in English)】

The fourth industrial revolution, in which new industries are being created through technological innovation represented by IoT, big data, artificial intelligence (AI), and robotics, is progressing with unexpected speed and impact. New business development is extremely important for the creation of new industries. In this lecture, participants will learn about business idea creation methods and business feasibility evaluation methods, which are new business development methods.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

ESG投資と企業経営

田中 優希

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の基礎理論から実践的な事例まで幅広く学ぶ。持続可能な経済活動の重要性を理解し、企業経営におけるESGの意義や課題を探究する。

【到達目標】

投資の意思決定において、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）という3つの非財務要因を考慮するESG投資の概念を理解する。

ESG投資が誕生した歴史的背景を理解する。

ESG投資家と企業経営者がESG要因について建設的に対話することで、持続可能な社会の実現につながることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、ESG投資の理論と実践を統合的に学ぶことを目的とする。各回の授業は講義、企業事例の分析、グループディスカッション、実習を組み合わせて進行する。

学生はESG要因の評価方法やデータ分析手法を学び、実際の企業事例を通じて理解を深める。特に、PCを用いたデータ整理やAIツールを活用したESGスコア解析など、実践的な課題にも取り組む。

最終回ではグループプレゼンを行い、ESG投資の将来について議論し、学習成果を総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	オリエンテーション ESG投資の歴史と現在	1)授業の概要、目標、進め方 2)ESG投資の基本概念と歴史/世界的なトレンド 3)気候変動・社会問題・企業の役割/投資家・企業・政府の視点 実習：SDGs目標と関連する企業データ、ESG投資の利点・課題の議論 事例：Unilever、Tesla
2回（3・4）	企業の持続可能戦略と財務パフォーマンス	1)債権投資、株式投資、インデックス投資 2)企業の持続可能戦略と財務パフォーマンス/ESG経営と財務指標の関係/企業価値への影響 3)投資家視点からのESG/ESG投資ファンドの動向 4)議決権行使とステークホルダーエンゲージメント 5)柳モデル、Value Balancing Alliance、インパクト加重会計 実習：財務データとESG指標の相関分析、実際のESG投資信託の比較分析 事例：Patagonia、BlackRock

3回（5・6） ESG評価とデータ分析

4回（7・8） サプライチェーンとESGリスク

5回（9・10） ESGと規制・政策
地域別のESG投資動向
ESGとテクノロジー

6回（11・12） インパクト投資とその未来

7回（13・14） ESG投資の未来
総括とディスカッション

1)MSCI、Sustainalytics、FTSE Russellの評価概要
2)ESGスコアの算出方法
3)AI・ビッグデータを活用したESGデータ分析
4)グリーンウォッシング
実習：ESGスコア算出
事例：Moody's、Volkswagen
1)ESGリスク管理とサプライチェーン
2)BCP戦略/企業のサステナブル調達戦略
3)ESGリスク（物理リスク、規制リスク、評判リスク）測定と開示
4)中小企業のESG戦略
5)ガバナンスと企業の透明性
実習：サプライチェーンのリスク評価と分析、企業の統合報告書分析
事例：Nike、Johnson & Johnson

1)ESG投資に関する各国の政策
2)EUタクソノミー、TCFD、GRIの基準
3)欧州、米国、アジアのESG投資の違い
4)新興国市場におけるESG規制の課題
実習：国際基準の比較と適用事例の検討、地域別のESG投資の強み・課題の分析
事例：BNP Paribas、Toyota
1)インパクト投資の成長分野
2)不動産と低炭素社会移行戦略
3)AI、ブロックチェーンによるESG投資の最適化
実習：AIツールを用いたESGスコアの解析、インパクト投資戦略のケーススタディ
企業事例：IBM、Acumen
1)次世代のESG指標
2)長期的な社会インパクトの評価
3)各自の学びの振り返り
実習：2050年を想定したESG投資戦略の提案、ESG投資の今後の可能性を議論
企業事例：Ørsted、Apple

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では、授業の理解を深めるために、事前学習と復習が重要である。まず、配布資料を事前に読み、授業内での議論に積極的に参加できるよう準備することが求められる。授業中に得た知識をもとに、自らの意見を発信し、議論を深めることが学びの質を向上させる。授業後には、講義内容を振り返り、主要な論点を整理し、理解を定着させることが重要である。準備学習および復習には、それぞれ標準として2時間の学習時間を確保することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（議論への参加、発表資料への貢献度、課題への取り組み姿勢）、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のためなし。

【その他の重要事項】

ゲスト講師招聘に伴い授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】

This course covers a wide range of topics from the fundamental theories of ESG (Environmental, Social, and Governance) investment to practical case studies. Students will gain an understanding of the importance of sustainable economic activities and explore the significance and challenges of ESG in corporate management.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

ダイバーシティ経営

斎藤 悦子

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化による労働力人口の減少、人々の労働観の変化、消費者の多様化、グローバルな社会環境における企業競争の激化といった現象が、日本企業にダイバーシティ経営を求めている。本講義では、企業の社会的責任論の立場からダイバーシティ経営の必要性をISO26000の中核主題など（特に人権、労働慣行、消費者課題、コミュニティへの参画・発展）に基づき検討し、議論する。

【到達目標】

ダイバーシティ経営の概念を理解する。概念の理解と同時に企業の社会的責任に関する最新の動向（人権と労働慣行、消費者課題、コミュニティの側面）からダイバーシティ経営の必要性を考察する。また、ダイバーシティ経営が、企業経営のみならず個人の生活のあり方や地域の持続可能性に大きな影響を与えていることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半は講義を行い、後半は受講生の発表とディスカッションを行なう。最終回はケースを用いて、受講生がダイバーシティ経営に関わる場面を想定し、自らが考えた意思決定と実践方法を全員で共有し、議論により深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) ダイバーシティ経営の概要と本授業でとりあげるISO26000について
2回(3・4)	日本社会とダイバーシティ	(1) 講義 日本社会の現状 (2) ディスカッション：日本社会の現状と多様性について考える
3回(5・6)	生活におけるダイバーシティ	(1) 講義：生活時間から見たダイバーシティ (2) ディスカッション：生活のダイバーシティに企業はどうかかわるのか
4回(7・8)	ISO26000を用いて—中核課題（人権・労働慣行）	(1) 講義：ISO26000について (2) ディスカッション：人権・労働慣行とダイバーシティ
5回(9・10)	ISO26000を用いて—中核課題（消費者課題）	1) 講義：現在の日本における消費者課題 (2) ディスカッション：消費者課題とダイバーシティ
6回(11・12)	ISO26000を用いて—中核課題（コミュニティへの参画・発展）	(1) 講義：企業は地域コミュニティにいかに関わるのか (2) ディスカッション：グローバル企業と各国の文化
7回(13・14)	ダイバーシティ&インクルージョン	(1) 講義：ダイバーシティ&インクルージョンとは (2) ケースメソッド：「ケース ダイバーシティ部門の苦悩」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に国内外企業のダイバーシティ経営やCSR活動に関心をもつように心掛けてほしい。毎回とりあげるテーマについて、準備学習として企業の事例を1社ほど検討して授業に参加する。また、復習として毎回のディスカッションで得られた知見を自分なりにまとめる、準備学習と復習には各2時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】

毎回、PPTを配布する。

【参考書】

山口一男著『ダイバーシティ（豊かな個性は価値創出の泉）—生きる力を学ぶ物語』東洋経済新報社、2008年
関正雄『ISO26000を読む』日科技連、2011年
E.H.シャイン『企業文化 改訂版：ダイバーシティと文化の仕組み』白桃書房、2016年
尾崎俊哉著『ダイバーシティ・マネジメント入門 | 経営戦略としての多様性』ナカニシヤ出版、2017年

【成績評価の方法と基準】

各回、ISO26000を軸にしてダイバーシティ経営のあり方を検討する。授業の後半は担当者を決めて企業事例を報告してもらい、全員でディスカッションをする。その報告とディスカッションへの貢献を評価全体のうちの50%とする。全体を通じて、最も関心のある分野を選び、その分野における優れた企業事例を報告する期末レポートの評価を50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義について特に多くの意見があったのは、生活におけるダイバーシティとそれに関連する女性の働き方や若者の働き方、留学生からは各国の文化をダイバーシティにどう反映させるかといったことでした。

ワーク・ライフ・バランスの現状を生活時間で示しながら説明しましたが、こうしたデータの存在について関心をもったという意見もありました。時間や場所から自由な働き方や在宅勤務のあり方といったことは、昨今の学生の興味のあるテーマなのだと思います。今後も積極的に近接する学問分野の知見を加え、豊かなダイバーシティ経営論にしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

Japanese society is facing the declining workforce, changing people's value to work, diversifying consumption and intensifying corporate competition. Under the circumstances, diversity management is required for Japanese companies. This course deal with diversity management from the theory of social responsibility and ISO26000.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

コーポレートガバナンス

林 順一

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コーポレートガバナンスとサステナビリティの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】

コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのか、またサステナビリティのいくつかの論点について、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、講師作成のレジュメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 授業の進め方の説明とその確認 (2) 最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2回(3・4)	米国のコーポレートガバナンス	(1) 米国のコーポレートガバナンスの変遷 (1930年代から現在まで、事例を含む) (2) 最近の動き (ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など)
3回(5・6)	英国のコーポレートガバナンス	(1) 伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み (機関投資家の役割の重視など) (2) 最近の動き (コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など)
4回(7・8)	わが国のコーポレートガバナンス	(1) 外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史 (2) アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5回(9・10)	ドイツのコーポレートガバナンス、サプライチェーンの人権問題	(1) ドイツのコーポレートガバナンスの特徴と課題 (2) サプライチェーンの人権問題への対応
6回(11・12)	フランスのコーポレートガバナンス、社会的企業	(1) フランスのコーポレートガバナンスの特徴 (2) ベネフィットコーポレーション、ダノンの事例分析など
7回(13・14)	ESG投資とSDGs、ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理	(1) ESG投資とSDGs (2) ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

(1) 事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。(2) 授業を振り返り、論点を整理してください。(3) 期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。

【参考書】

林順一(2022)『コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティー会社の目的を考える』文眞堂。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)、期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

該当ありません。

【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界28年、不動産・資産運用会社10年余の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance and sustainability to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

ARS1520Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 500)

地域活性化特論

橋本 正洋

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群、人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域政策の研究者、実務家を主な対象とした実践的な講義である。教授からの基礎知識に関する講義を踏まえ、地域の活性化の取り組みについて、その分野の専門家や各地域で活躍するキーパーソンをゲストスピーカーに招き、政策の枠組み、産業連関分析や産業クラスター論などの基礎的な分析の手法、課題と成功の要因を紹介していただき、それを基に受講生と討議を行う形式の講義とする。ゲストには、この分野で著名な有識者、行政、地域のリーダーに願う。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【到達目標】

地域における最新の取り組みを理解し、その戦略の在り方等について考察を深めることにより、自らの課題等の研究活動に活用できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

イントロダクションに続いて、各界の識者から講義及び討議テーマをいただき、それについてグループディスカッションを進め、全体で討議を行う。必要に応じ、現地での実習を行うこともある。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	地域活性化に関する基本的な問題点を俯瞰する。 招聘講師について詳細を提示する。
2回(3・4)	地域活性化ケース1	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
3回(5・6)	地域活性化ケース2	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
4回(7・8)	地域活性化ケース3	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。
5回(9・10)	地域活性化ケース4	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

6回(11・12)

具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

7回(13・14)

具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する。当然のことながら全体討議のまとめが担当教員により行われる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師を事前に提示するので、予習しておくこと。講義後には、毎回レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

講義の際に講師より配布、提示する。

【参考書】

講義の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施する場合はおよそ50%）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

他では得られない講師の講義を受講できる。

【学生が準備すべき機器他】

ゲスト講師が遠隔で講義する場合もあるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

本講義は原則隔年で行うが、他の講義との関係で、2025年度の開講は未定であり注意すること。

【Outline (in English)】

This is a practical lecture aimed primarily at regional policy researchers and practitioners. Based on the professor's lecture on basic acquaintanceship, experts in the field and key people active in each region will be invited as guests to talk about regional revitalization efforts. They will introduce policy frameworks, basic analytical methods such as input-output analysis and industrial cluster theory, as well as challenges and factors for success, and the lecture will be in the form of a discussion with students. Guests will be well-known experts in this field, government officials, and regional leaders.

OTR530Q2（その他 / Others 500）

特別講義（統計学入門）

後藤 嘉孝

備考（履修条件等）：特別講義科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会科学分野の研究に必要な統計学の基礎を学びます。統計に苦手意識を持つ受講者でも理解しやすいよう、理論と実践をバランスよく組み合わせ、データ分析の考え方や基本的な統計手法を習得することを目的とします。修士課程で量的研究を予定している受講者は、統計の基礎知識を身につけ、自身の研究に活用できることを目指します。一方、質的研究を予定している受講者は、統計手法を用いた先行研究を適切に読み解く力を養うことを目指します。

【到達目標】

- ・統計学の基本概念を理解し、データの整理や可視化ができる。
- ・仮説検定や回帰分析などの基本的な統計手法を用いて、データを分析・解釈できる。
- ・先行研究の統計分析結果を読み解き、自身の研究に活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・実際に統計ソフト（エクセルを予定）を用いた演習により理解・定着を図ります。
- ・社会科学の論文を題材にし、統計的手法の具体的な活用例について、グループ討議を行います。
- ・統計学が初めての受講者を念頭に、丁寧に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション（統計学とは）	講義の概要と進め方について説明する。また、データの集め方、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
2回(3・4)	母集団と標本、確率	母集団と標本の概念、確率の考え方について学びます。
3回(5・6)	推測統計と信頼区間	推測統計の考え方（標本から母集団を推測する）、点推定と区間推定（信頼区間の概念）、標本サイズと誤差の関係について学びます。
4回(7・8)	仮説検定の基本	仮説の立て方（帰無仮説と対立仮説）、p値の意味と統計的有意性、第一種の過誤・第二種の過誤について学びます。
5回(9・10)	様々な仮説検定（t検定・分散分析・カイ二乗検定）	t検定、分散分析およびカイ二乗検定（クロス集計表を用いた分析）について学びます。
6回(11・12)	相関と回帰分析（単回帰・重回帰）	相関の考え方（相関係数の意味と注意点）、単回帰分析（最小二乗法・回帰直線・決定係数）、重回帰分析について学びます。
7回(13・14)	まとめ	本授業の復習・まとめと自身の研究に関連する論文を読み、研究に統計分析をどのように活用できるかを発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・演習問題を宿題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で配布するレジュメ（パワーポイント）をテキストとして使用します。

【参考書】

阿部真人『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』ソシム（2021）
毛塚和宏『社会科学のための統計学入門 実例からていねいに学ぶ（K S 専門書）』講談社（2022）
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社（2013）
神林博史、三輪哲『【改訂新版】社会調査のための統計学 ー生きた事例で理解するー 現場の統計学』技術評論社（2024）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）：授業への参加・貢献度
提出課題（50％）：各回の演習課題、期末レポート課題

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業でエクセルを使うことがあるため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。シンクタンクにおける社会調査・データ分析の経験を踏まえ、研究だけでなく実務にも役立つ事例を交えながら授業を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the fundamental statistical concepts necessary for research in the social sciences. The aim is to help students develop an understanding of statistical thinking and basic data analysis techniques through a balanced approach that combines theory and practice.

For students planning to conduct quantitative research, this course will provide the foundational knowledge necessary to utilize statistics effectively and apply it to their own studies. For those focusing on qualitative research, it will enhance their ability to accurately interpret previous studies that utilize statistical techniques.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:
Understand fundamental statistical concepts and organize data effectively.

Apply statistical methods such as hypothesis testing and regression analysis to analyze and interpret data.

Read and interpret statistical results in academic papers and utilize statistical approaches in their own research.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours reviewing lecture materials and completing assigned exercises to reinforce their understanding of statistical concepts.

【Learning activities outside of classroom】

After each class, students are expected to review the textbook and lecture materials to reinforce their understanding of fundamental concepts.

Students will complete exercise problems as homework to apply and deepen their knowledge.

The standard preparation and review time for this course is two hours per session.

【Grading Criteria /Policy】

Class participation and contribution: 50%

Assignments and final report: 50%

ECN500Q2（経済学 / Economics 500）

経済学

梅溪 健児

備考（履修条件等）：導入科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では入門レベルの経済学（ミクロ経済学が中心）を数式なしで学ぶ。教材は政策設計に役立つであろう経済学の現実適用事例に重点を置く。授業の目的は、第一に、経済社会を形成する個人や組織の選択は経済学でどのように理論化されるのかを理解する。第二に、研究のストーリーづくりの一助となるように、経済学が地域の課題解決に役立つ枠組みを学ぶ。

これまで経済学を履修したことのない学生の受講を想定するが、履修経験のある学生にとっても本講義が少しでも役立つことを期待するので受講を歓迎する。

【到達目標】

本講義の目標は、①個人や組織が物事を選択する（質的ではなく）数量的な判断基準を理解すること（例、予算制約下の効用最大化）、②日常生活やビジネスで遭遇する事象を経済学の枠組みで解明できること（例、情報の非対称性）、③個人や組織の利便性を高めたり地域社会の困難に対処するために経済学が適用されている最近の事例（例、ダイナミック・プライシング（変動価格制）、ゲームの理論）を理解することの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進行は入門テキストに基づくが、その内容を順に取り上げるのではなく、必要な部分を抽出した教材を配布して講義を行う。各回の前半は講義とし、後半は輪読と討議、質疑応答にあてる。必要な教材は一部を除いて1週間前に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	経済学の基本は最大化（最小化）をよしとする	消費者の効用の最大化、企業の利益の最大化という基本を通じて価格が果たす役割を学ぶ。効率と公平を考える。事例として、変動価格制（スーパーの総菜値引き）、移住を取り上げる。
2回（3・4）	経済学は資源配分の最適化を目指す	経済学は市場における自由な取引を通じて効率的な資源配分をゴールとするが、それを意味するパレート最適の考え方を学ぶ。事例として、チケット販売、外食、競争政策を取り上げる。
3回（5・6）	市場取引はベストというが実は失敗する	経済学は市場を重視するが、実は前提が満たされないと市場は失敗することを学ぶ。事例として、道路混雑と渋滞税、うその申告、地域における公共財、鉄道沿線開発を取り上げる。
4回（7・8）	非対称な情報が引き起こす問題は世に多い	市場の失敗の続きで、情報の非対称性の意味、逆選択を学ぶ。事例として、採用と学歴重視、過大コストをかける広告、観光地の土産物店を取り上げる。

5回（9・10） ゲームの理論が提案する策により満足度を高める

6回（11・12） 政策研究における経済学と社会学を比較する

7回（13・14） レポート発表と討議

マッチングを用いて、相手の出方が関係する場合に参加者の満足度を高める方策を学ぶ。事例として、学生のゼミ配属、高校入試単願制を取り上げる。

経済学と社会学における分析の特徴を学ぶ。事例として、結婚に関して機会費用を用いる経済学、世間体や本人の心意気から迫る社会学を取り上げる。

共通課題に関するレポートを発表し討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は1回の講義につき4時間を標準とする。日頃からニュースや記事に接し、経済学が問題解明や政策立案にどのように貢献しているのかに関心を持つことを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】

市村英彦・岡崎哲二他編（2020）『経済学を味わう』日本評論社
伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版

小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
日本経済新聞社編（2014）『身近な疑問が解ける経済学』日経文庫
松井彰彦（2018）『市場って何だろう』ちくまプリマー新書

【成績評価の方法と基準】

輪読及び討議（50％）、レポート作成と発表（50％）の合計

【学生の意見等からの気づき】

身近な事例の紹介は経済学の理解にとっても役立つとの指摘があったので、本年度も重点を置く（例、百貨店vs業種専門店：消費者行動、自治体サービスと居住地選択：市場メカニズム、ワクチン接種の無料提供：外部経済効果、ネット保険はなぜ安いのか：情報の非対称性、人はなぜお土産を渡すのか：ゲームの理論など）。

【学生が準備すべき機器他】

教材は学習支援システムに掲載する。また、レポートは図表を各自作成するのでパソコンが必要。

【その他の重要事項】

対面授業を基本とする。経済学は数学が必要と認識している受講生が多いかもしれないが、本講義で数学的証明を用いる説明は行わない。代わりに、図表によって量的な比較を学んでいただきたい。マクロ経済学は、本講義では原則として取り上げない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics. The goal of this course is to understand the role of the economics in solving social problems related to local activities. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for four hours prior to and after the class. Students are graded according to the following scales: in-class discussion (50%) and the term paper (50%).

SOC500Q2（社会学 / Sociology 500）

社会学

高岡 文章

備考（履修条件等）：導入科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「見えないものを見る力」をテーマに、近現代社会を理解するために必要な社会学のエッセンスを学ぶ。

【到達目標】

- ①合理性、再帰性、権力、消費、メディアなど社会学の基礎的な概念を理解する。
- ②社会学の批判的な思考法を習得する。
- ③社会学の概念や理論を用いて近現代社会を分析する手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせる。

演習では、前の週の講義で学んだ社会学の概念や理論を用いて、受講生が近現代社会を分析し、発表する。
また受講生同士のディスカッションをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	ガイダンス	社会学の「感じ」をつかむ。 ①資本主義、官僚制などをテーマに、社会学が「批判の学」であることを理解する。 ②ジェンダー、エスニシティ、階層などをテーマに、社会学が「暴露の学」であることを理解する。 ③儀礼的無関心や感情労働などをテーマに、社会が私たちの身の周りに遍在していることを理解する。
2回(3・4)	合理性	第3回は前回講義を踏まえた演習とする。 第4回は合理性をテーマに、近現代社会の特質を理解する。 マックス・ヴェーバー、ハンナ・アレント、ジョージ・リッツァらの議論をとりあげる。
3回(5・6)	権力	第5回は前回講義を踏まえた演習とする。 第6回は権力をテーマに、近現代社会の特質を理解する。 ミシェル・フーコーらの議論をとりあげる。
4回(7・8)	再帰性	第7回は前回講義を踏まえた演習とする。 第8回は再帰性をテーマに、近現代社会の特質を理解する。 アンソニー・ギデンズ、ウルリッヒ・ベックらの議論をとりあげる。

5 回（9・消費
10）

第9回は前回講義を踏まえた演習とする。

第10回は消費をテーマに、近現代社会の特質を理解する。
ソースタイン・ヴェブレン、マックス・ホルクハイマー&テオドル・アドルノ、ジャン・ボードリヤール、ピエール・ブルデュー、見田宗介らの議論をとりあげる。
第11回は前回講義を踏まえた演習とする。

6回（11・つながり
12）

第12回はコミュニケーションやコミュニティをテーマに、近現代社会の特質を理解する。
アンソニー・ギデンズ、ジョン・アーリらの議論をとりあげる。

7回（13・総括
14）

第13回は前回講義を踏まえた演習とする。

第14回は授業内容を総括し、受講者の今後の学習・研究を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで紹介する論文や資料を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

受講生は授業時間外の学習成果を授業内で随時発表する必要がある。

【テキスト（教科書）】

『現代社会の理論』（見田宗介、岩波新書、1996年）

【参考書】

『社会学（新版）』（長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、有斐閣、2019年）

『社会学史』（大澤真幸、講談社現代新書、2019年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（70%）、平常点（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見等を参考にしながら授業を運営する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn the essence of sociological concepts and theories.

BSP500Q2（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 500）

レポートライティング

佐藤 雄一郎

備考（履修条件等）：導入科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文の執筆に必要な基本的知識とスキルを習得することを目的とする。修士論文を「序論」「本論」「結論」に分け、各パートで何をどのように書くかについて具体的な方法とスキルを学ぶ。特に、論文の作法と序論の書き方に力点を置き、問題意識、先行研究、リサーチギャップ、リサーチクエスションの流れに沿って構造的に論文を書く力を高める。最終レポートでは、今後作成する修士論文の序論に相当する部分を実際に書き上げることで、実践的な執筆力を養うことを目指す。

【到達目標】

学術論文の形式に関する知識をもとに、自ら設定したテーマに関する論文を書く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とグループワークを組み合わせる。講義では、論文執筆に必要な知識を中心に扱う。グループワークでは、論文のテーマやリサーチクエスションの設定、先行研究の共有など、論文執筆に欠かせない事項を深め、参加者が研究の進め方や論文執筆に関する具体的なイメージを形成するように進める。さらに、授業支援システムを利用して、参加者は各セッションのテーマに関する考えや進捗を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション	・授業の進め方及びテキスト・参考書の紹介 ・研究や論文の概略 ・自分の研究テーマや問題意識を整理してみよう
2回（3・4）	論文の基礎事項	・論文の構成 ・論証の方法 ・自分の研究の「問い」（明らかにしたいこと）を考えてみよう
3回（5・6）	序論の記述（1）	・論文における序論の役割 ・問題提起と背景の説明 ・先行研究の記述とリサーチクエスションの設定
4回（7・8）	序論の記述（2）	・先行研究の調べ方 ・先行研究を踏まえた文章の書き方 ・先行研究からリサーチギャップの導き方 ・参考文献の記載の仕方 ・剽窃ソフトの活用
5回（9・10）	本論の記述	・序論から本論へ ・本論の役割と記述 ・様々な研究手法 ・調査結果の記述方法

6回（11・12）

7回（13・14）

- ・本論から結論へ
- ・結論の役割と記述
- ・結果と結論の違い
- ・研究の限界と課題について
- ・読みやすい文章とは
- ・優秀論文の紹介
- ・授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後の課題、および最終レポートを作成し提出する。

【テキスト（教科書）】

小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』講談社現代新書 2022年。
授業時にレジュメを毎回配布する。
当研究科の優秀論文を扱う。

【参考書】

ダン・レメニイほか著・小樽商科大学ビジネス創造センター訳『社会科学系大学院生のための研究の進め方 修士・博士論文を書く前に』同文館出版 2003年。

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 1994年。

栗田治『思考の方法学』講談社現代新書 2023年。

レスリー・ジェーン・イーグルズ・レイノルズ他著・楠見孝・田中優子訳『大学生のためのクリティカルシンキング—学びの基礎から教える実践へ』北大路書房 2019年。

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年。

戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK出版 2012年。

吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第2版）』ナカニシヤ出版 2017年。

【成績評価の方法と基準】

次の配分によって成績評価を行う。

- ①平常点（授業への参加、グループワーク、課題）30%
- ②最終レポート70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見からは、個々のテーマに即したコメントやフィードバックが重要であるという点が明らかになった。そこで、可能な限り学生の論文テーマを授業で取り上げ、修士論文や政策研究論文の序論執筆を進めるための場として活用できるようにすることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業では、授業支援システムに各自が準備した課題や進捗状況をアップロードし、それを画面に投影して共有する予定である。そのため、パソコンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

- ・最終レポートは手書きではなく、原則としてWordで作成し、授業支援システムを通じて提出することを求める。
- ・オフィスアワーは授業後に設けるとともに、メール等でも質問を受け付ける。
- ・授業の進め方や取り扱う題材は、履修する院生の状況やニーズに応じて柔軟に対応する。そのため、シラバスの内容や進め方が状況により一部変更になる場合がある。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire the fundamental knowledge and skills necessary for writing a master's thesis. The course divides the thesis into three parts — introduction, body, and conclusion — and covers specific methods and techniques for what to write and how to write in each section. Particular emphasis is placed on the conventions of thesis writing and on structuring an introduction according to the logical flow of problem awareness, previous research, research gaps, and research questions. For the final report, students will develop practical writing skills by drafting the portion of their future master's thesis that corresponds to the introduction.

SOW510Q2（社会福祉学 / Social Welfare 500）

地域共生社会特論

水野 雅男、図司 直也、宮城 孝、金 慧英、杉浦 ちなみ、眞保 智子、渡辺 寛人

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉サイド（例：個別・地域・政策レベルの生活問題解決）およびまちづくり・地域創生サイド（例：興味・関心から始まるまちづくり）の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域（担当教員の専門領域は下記参照）に照らして理解する。

【到達目標】

人・暮らしを中心に据えた生活問題の解決・改善、地域課題の解決を目指した地域づくりやまちづくりに関して、社会福祉と地域づくりの両面から具体的な理論・実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員7名がオムニバス形式で講義を担当する。外部講師を招聘することもある。遠隔地からの講義の【オンライン型】、または【対面型授業】での開講となる。本講義のお知らせ・教材・課題およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開	包括的支援システム構築への展望と課題
第2回	①（宮城） 地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開	包括的支援システム構築とコミュニティソーシャルワークの展開
第3回	②（宮城） 高齢者介護と介護専門職の支援①（金）	介護をめぐる課題
第4回	高齢者介護と介護専門職の支援②（金）	外国人を含む介護専門職の支援
第5回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク①（眞保）	企業等産業分野における包摂
第6回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク②（眞保）	ダイバーシティマネジメント
第7回	貧困に対する支援①（渡辺）	貧困問題の基礎理論と貧困対策の展開
第8回	貧困に対する支援②（渡辺）	貧困に対する支援の実践
第9回	地域マネジメントと地域経済循環①（図司）	農村コミュニティの基礎的理解
第10回	地域マネジメントと地域経済循環②（図司）	内発的発展の考え方とその実践
第11回	地域における学習の組織化と展開①（杉浦）	地域社会教育の基本的課題

第12回 地域における学習の組織化と展開②（杉浦）

第13回 障害者の社会的包摂を目指した市民事業①（水野）

第14回 障害者の社会的包摂を目指した市民事業②（水野）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に資料を配布。

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各講義中のリアクションペーパー等）100%

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講者の声を踏まえて、講義内容を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

主な研究領域

- 1) 宮城（コミュニティソーシャルワーク、包括的支援システム）
- 2) 金（介護施設の組織的管理体制の構築）
- 3) 眞保（障害者雇用と就労支援 若者支援）
- 4) 渡辺（若者の労働・貧困問題と生活保護）
- 5) 図司（農山村における地域経営の仕組みづくりと地域経済循環）
- 6) 杉浦（地域文化の継承と創造）
- 7) 水野（社会的包摂の市民事業）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of community and social cohesion. The topics covered will be diverse to provide an overview of areas that impact on social policies and community development. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work and community management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%: including in-class reports) within class.

CMF510Q2（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 500)

フィールドワーク演習（1単位）

水野 雅男

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコの創造都市（クラフト＆フォークアート部門）に認定された金沢市において、行政機関と連携している市民組織の活動現場を視察し、その関係者から組織運営について聴取する。

【到達目標】

都市政策を遂行する上で、市民組織が行政機関とどのような役割分担を取ることが望ましいのかを体感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

創造都市金沢に関する行政政策と市民活動について事前学習を行った上で、1泊2日の現地調査を行い、調査結果についてレポートをとりまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	事前学習	創造都市金沢に関する情報を収集整理し共有する
2回(3・4)	現地調査①	アートNPOの視察
3回(5・6)	現地調査②	シェアアトリエ（リノベション町家）の視察
4回(7・8)	現地調査③	アートまちづくり（リノベション倉庫）現場の視察
5回(9・10)	現地調査④	金澤町家情報館と金澤町家研究会の視察
6回(11・12)	現地調査⑤	アート・クラフトゾーン（金沢21世紀美術館、国立工芸館）の視察
7回(13・14)	調査レポートの発表・共有	調査結果を各自レポートにまとめ報告会で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして主に金沢での市民活動とそのコーディネートに30年間関わった経験に基づき、現場を案内する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In Kanazawa, a city designated as a UNESCO Creative City (Crafts and Folk Arts) the tour will visit the sites of citizen organizations that work in collaboration with government agencies and hear from those involved about how the organizations are run.

【Goal】

This program will provide participants with an opportunity to experience what role sharing is desirable between citizen organizations and government agencies in implementing urban policies.

【Method(s)】

After preliminary learning about administrative policies and civic activities related to the creative city of Kanazawa, students will conduct a two-day, one-night field survey and compile a report on the survey results.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on normal marks (100%).

CMF510Q2（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 500）

フィールドワーク演習（1単位）**石山 恒貴**

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現地に赴き、フィールドワークをし、その事例を調査研究する科目。地域活性化における事例の先進性、成功のポイント、課題などを受講生が現地でフィールドワークで洗い出す。

地域活性化のあり方を、事例を通じて検討していく。フィールドワーク終了後に、受講生自身がフィールドワークから得た知見を、各自報告することを求める。

【到達目標】

フィールドワークを通じて地域活性化の先進性、成功のポイント、課題などを現地で学習する科目。各人がフィールドワークの中で、それぞれ自分なりのリサーチエスチョンを設定し、それを解明していく。フィールドワークを通じて地域活性化をみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

広い意味で地域活性化にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域活性化とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。

受講生がフィールドワークから得た知見に関して、フィールドワーク後に報告していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	地域活性化の定義と背景 フィールドワークの方法	そもそも地域活性化の定義とはどのようなものなのか、フィールドワークの方法論を学ぶ。
2回	フィールドワークにおけるリサーチエスチョンの設定	フィールドワークにおけるリサーチエスチョンをグループ討議などもふまえて、各自設定する
3回	北海道室蘭市でのフィールドワーク 1	北海道室蘭市でのフィールドワークで地域活性化の背景を分析する
4回	北海道室蘭市でのフィールドワーク 2	北海道室蘭市でのフィールドワークで地域活性化の成功のポイントを分析する
5回	北海道室蘭市でのフィールドワーク 3	北海道室蘭市でのフィールドワークで地域活性化の課題を分析する
6回	地域活性化のフィールドワーク事例の検討・報告（その1）	地域活性化のフィールドワーク事例のポイントを、受講者が発表し、議論する。
7回	地域活性化のフィールドワーク事例の検討・報告（その2）	地域活性化のフィールドワーク事例のポイントを、受講者が発表し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。

1. フィールドワークは自分なりのリサーチエスチョンを設定し、それを現地で分析する

2. 地域活性化をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】

以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域活性化をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。

石山恒貴編『地域とゆるくつながろうーサードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社 2019年

石山恒貴編『ゆるい場をつくる人々：サードプレイスを生み出す17のストーリー』学芸出版社 2024年

【成績評価の方法と基準】

①フィールドワーク事前授業における議論の実施状況による得点（20点）、②フィールドワーク中における、調査への貢献による得点（30点）、③フィールドワーク事後授業における報告の得点（50点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初回の実施なので、今後の検討になる

【学生が準備すべき機器他】

場合によってパワーポイントなどを使用する

【その他の重要事項】

現地でフィールドワークを行うことに留意して受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of regional revitalisation. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of regional revitalisation.

Goal

At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on regional revitalization.

Learning about regional revitalisation is done on-site through fieldwork.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution before fieldwork: 20%

Contribution during fieldwork: 30%

Presentation on regional revitalization after fieldwork: 50%、

OTR510Q2（その他 / Others 500）

特別講義（希望学概論）

玄田 有史

備考（履修条件等）：リサーチ・フィールドワーク系科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義担当者は、2005年から「希望の社会科学（通称・希望学）」という研究をしてきました。岩手県釜石市や福井県市町村をはじめ、希望を創造しようとする実践的な地域の人々にもたくさん出会いました。その結果、地域に希望を生み出す条件として「ローカル・アイデンティティの再構築」「地域内外のネットワークの形成」「希望の共有」を提唱しています。さらに「人口が減っていても地域は簡単にはなくなるが、小ネタが尽きるとあっという間に地域は衰退していく」という「小ネタ理論（KNT理論）」も展開中です。これらの考え方を題材にこれからの地域と希望の関係を共に学んでいこうというのが、本授業の目的です。

【到達目標】

希望という言葉は、抽象的でなかなか中身が捉えづらいものかもしれません。一方で、地域の未来を考えると、幸福や夢、well-beingなどと並び、しばしば注目される言葉でもあります。受講者は受講を通じて、自分なりに「希望とはなにか」「希望のためには何が必要か」などの考えを持つようになればと思っています。希望学では、希望にとってアクションが重要な柱であると考えています。講義を通じて地域のなかに希望を生み出すアクションを各自が発揮できるようになれば嬉しいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義も行いますが、基本的には受講者がそれぞれの経験から「地域と希望」というテーマで話題提供をし、それに対して参加者同士で意見を述べ合うゼミ形式なども重視しています。リサーチ・フィールドワークとして、3年に一度「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」を開催している新潟県の十日町、津南町などを受講者と訪れ（希望者のみ）、地元住民、芸術家、運営関係者等と交流し、地域における希望の実践や小ネタづくりの楽しさや意味などについて直接学ぶことを計画しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	希望学とは（その1）	希望学について講義します。
2回(3・4)	希望学とは（その2）	希望学について講義します。
3回(5・6)	ケーススタディ（その1）：岩手県釜石市の取り組み	震災復興前後の岩手県釜石市の取り組み（特に防災面）を学びます。ゲスト講師を招いて議論する予定です。その上で担当教員によるまとめを行います。
4回(7・8)	ケーススタディ（その2）：越後妻有トリエンナーレの取り組み	越後妻有トリエンナーレを通じ地域に希望を生まれる過程を学びます。ゲスト講師を招き議論する予定です。その上で担当教員によるまとめを行います。
5回(9・10)	フィールドワークの実施@新潟県十日町・津南町等（予定）	越後妻有トリエンナーレの取り組みについて現地を訪問し（希望者のみ）、ヒアリング調査や現地視察を行います。現地調査が難しい受講者については、別途資料などを用いた調査を行います。

6回(11・12)	「地域と希望」に関するレポート報告（その1）	受講者は、授業とそれぞれの経験を踏まえて「地域と希望」に関するレポートを報告し、議論を行います。
7回(13・14)	「地域と希望」に関するレポート報告（その2）および講義の振り返り	前回到続き、レポート発表を行います、最後に講義者が講義全体の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は「地域と希望」のレポートを作成するために、特定の地域を対象に各地での希望の形成、特に挫折から希望を育んでいくプロセスについて考察するための、資料収集、聞き取り調査などの主体的な学習が求められます。レポートは、概ね4000～6000字程度を期待していますが、そのためには講義全体を通じてトータル10時間は時間外学習が必要になるでしょう。またフィールドワークの前には、2～4時間程度の事前学習を学生は行う必要があるでしょう。

【テキスト（教科書）】

教科書：

玄田有史『希望のつくり方』岩波新書、2010年
北川フラム『ひらく美術：地域と人間のつながりを取り戻す』ちくま新書、2015年

【参考書】

参考文献：

北川フラム『越後妻有里山美術紀行』現代企画室、2023年
東大社研・玄田有史・中村尚史編『希望の再生－釜石の歴史と産業が語るもの』『希望をつなぐ－釜石からみた地域社会の未来』東京大学出版会、2009年
東大社研・玄田有史編『希望学 あしたの向こうに一希望の福井、福井の希望』東京大学出版会、2013年
東大社研・中村尚史・玄田有史編『＜持ち場＞の希望学－釜石と震災、もう一つの記憶』東京大学出版会、2014年
東大社研・中村尚史・玄田有史編『地域の危機－釜石の対応 多層化する構造』東京大学出版会、2020年等

【成績評価の方法と基準】

講義の終盤に提出・発表されるレポートの内容で基本的に評価を行います（70％）。加えて毎回の講義への出席状況や質疑の内容（15％）、その他（15％）なども踏まえて総合的に成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特にオフィスアワーの時間などは設定しませんが、質問や意見があれば、いつでも電子メールやオンライン会議などで対応しますので、遠慮なくご相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

The lecturer has been conducting research with his colleagues on the "social science of hope" (commonly known as the study of hope) since 2005. In the course of their research, they have encountered practical efforts to create hope in many regions, including Kamaishi City, Iwate Prefecture, and municipalities in Fukui Prefecture. Consequently, they advocate "reconstructing local identity," "forming networks inside and outside the region," and "sharing hope" as conditions for creating hope in a region. In recent years, he has also advocated the "KONETA(small story) Theory (KNT theory)," which states that "regions do not disappear easily even if their population declines, but when the KONETAs run out there, they will decline in an instant." The purpose of this class is to explain these ideas as materials and learn together about the relationship between regions and hope in the future.

ENG520Q2 (その他の工学 / Engineering 500)

住宅政策特論

水野 雅男

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどういう状況下にあるのか、「空き家」の実態と対策に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】

国内外の実態と対策を俯瞰し、かつ研究論文をレビューしながら、人口減少という社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを提示し、冒頭にその発表を行い、参加者で意見交換する。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画と各自の住宅変遷の紹介
第2回	空き家の実態①	住宅・土地統計調査報告書
第3回	空き家の実態②	空き家所有者実態調査報告書
第4回	国内外の空き家対策①	我が国の空き家等対策特別措置法
第5回	国内外の空き家対策②	アメリカの空き家対策
第6回	国内外の空き家対策③	ドイツの空き家対策
第7回	国内外の空き家対策④	フランスの空き家対策
第8回	国内外の空き家対策⑤	イギリスの空き家対策
第9回	空き家の活用事例①	金沢における活用プロジェクト
第10回	空き家の活用事例②	「家いちば」「0円空き家バンク」等のビジネスモデル
第11回	空き家に関する研究①	金沢での居住継承に関する研究
第12回	空き家に関する研究②	空き家の実態に関する研究
第13回	空き家に関する研究③	空き家の流通に関する研究
第14回	総括	戦後日本の住宅政策の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に4時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】

「世界の空き家対策」 米山秀隆編著、学芸出版社、2018年
「空き家幸福論」 藤木哲也著、日経BP、2020年

【参考書】

「マイホームの彼方に」 平山洋介、筑摩書房、2020年

「アメリカの空き家対策とエリア再生」 平修久、2020年
「老いた家、衰えぬ町」 野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

< Course outline >

In a society with a declining birthrate and an aging population, what is the current state of housing, which is the foundation of life and is deeply connected to welfare,? This program will focus on the current situation of vacant houses and measures to address the housing market and housing policy issues.

< Learning Objectives >

This course will provide an overview of the current state of affairs and measures both in Japan and overseas, and will also review research papers, enabling students to understand how the housing market has responded to the social change of a declining population, and how policies have supported this response.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk520Q2（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

内発的農村発展特論

図司 直也

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人口減少局面が先んじて発現している農山村地域は、多くの課題に直面しながらも、それを乗り越えようと各地で地域づくり活動が先発するフロンティア地域でもある。本講義では、その事例のプロセスや背景にあるカラクリを読み解き、地域づくりにおける内発的発展のあり方を学ぶ。

【到達目標】

本講義では、農山村地域の社会構造や経済構造を読み解き、内発的発展に求められる要素とプロセスデザインを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴 I	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴 II	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通じた議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、事前に目を通し、疑問点や論点を挙げ、授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加50%，指摘課題・報告内容50%

【学生の意見等からの気づき】

過年度ではアンケートを実施していないが、毎年の受講者の声を踏まえて、授業内容を改善していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

＜研究テーマ＞ 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

＜主要研究業績＞

『新しい地域をつくる』（共著、岩波書店、2022年）

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will mainly focus on the agricultural and mountainous areas of Japan as an approach to capture the regional space. In the agricultural and mountainous village areas where the population is declining, there are various regional developments, and we will learn from the cases and discuss them.

【Learning Objectives】 Understand the social and economic structures of Japan's rural areas behind the regional space.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare the text in advance and raise questions and issues. After class, look back on the content and sort out the main points. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Discussion：50%, Report content：50%.

ENV520Q2（環境保全学 / Environmental conservation 500）

環境社会学特論

野田 岳仁

備考（履修条件等）：都市・文化・観光創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法を用いて、地域問題の解決、地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。そのうえで、生活環境主義によるフィールドワークとデータ分析の方法およびその思想をマスターすることを目指す。

【到達目標】

地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義は多様な学び方に配慮して対面とオンラインを組み合わせる授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ

第14回 生活環境主義の実践 有効性のある政策論への模索性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『井戸端からはじまる地域再生—暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ECN520Q2 (経済学 / Economics 500)

経済地理学 (経済地理学 A)

近藤 章夫

備考 (履修条件等)：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間 (1)	主要論文の輪読
第3回	経済学と地理・空間 (2)	主要論文の輪読
第4回	経済学と地理・空間 (3)	主要論文の輪読
第5回	都市と集積 (1)	主要論文の輪読
第6回	都市と集積 (2)	主要論文の輪読
第7回	都市と集積 (3)	主要論文の輪読

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト (教科書)】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press

Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点 (出席および輪読文献の紹介等) 80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

＜主要研究業績＞

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process

Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

ソーシャル・イノベーション特論

土肥 将敦

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

【到達目標】

CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える①
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える②
第4回	輪読とディスカッション①（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション①（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション②（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション③（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション④（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】

講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加50%、各回の報告内容50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

＜研究テーマ＞ ソーシャル・イノベーション、CSR

＜主要研究業績＞

『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房、2022年）

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【Outline (in English)】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

地域マネジメント

松本 敦則

備考（履修条件等）：産業・企業・イノベーション創造群

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域マネジメントでは、地域が抱える様々な課題を把握し、その解決策を過去の事例を踏まえて検討していく。その上で、自らその実践者として活動できるようにすることを目的とする。

そのために、前半にまず地域産業や地域活性に関する理論、特に地域産業集積の視点から学ぶ。後半では地域活性の過去の事例研究の整理を行ったのち、現在の地域活性に関する様々な課題を検討する。

【到達目標】

本講義では地域が抱える課題の解決を主眼とした歴史的経緯、現状分析などの理論的理解を進める。

さらに、実践的な力を獲得するために、現時点ではある地域の事例についてグループワークを行うことを考えている。地域は現時点では未定であるが、東京を中心とした関東地域の地方自治体の政策担当者や地域マネジメントを行う旅行会社等の民間企業などの課題を検討していきたい。

受講生が、本講義を通して各自のプロジェクトにおいて解決すべき地域課題の抽出方法、調査方法、解決の手法のヒントを得ることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半にまず地域産業や地域活性に関する理論、特に地域産業集積の視点から学ぶ。後半では地域活性の過去の事例研究の整理を行ったのち、現在の地域活性に関する様々な課題を検討する。授業では、はじめに地域にの基礎的な概念や制度の変遷、先進国事例などを整理する。

また、ゲストスピーカーを招へいする場合、受講生は事前にゲストに対して情報収集をして講義に臨んでもらいたい。ゲスト講師との討議に積極的に参加することを期待します。

※ゲストのスケジュールに合わせて講義内容を調整することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（受講生の要望を把握する）	地域マネジメントの講義の進め方を説明する。 受講生からの要望をこのオリエンテーションで把握し、講義の組み立てを再考することもある。
第2回	地方消滅	増田寛也編（2014）『地方消滅』、人口戦略会議編（2024）『地方消滅2』中公新書について、その考え方やその反論などを整理し議論していく。
第3回	地域産業や地域活性に関する理論研究1	主に産業集積の観点から地域マネジメントを検討する。A・マーシャルやピオリ&セーブルなどを取り上げる。
第4回	地域産業や地域活性に関する理論研究2	主に産業集積の観点から地域マネジメントを検討する。A・サクセニアン、清成忠男などを取りあげる。

第5回	イタリア地域産業研究1	主に産業集積の観点からイタリアの地域研究を行う。
第6回	イタリア地域産業研究2 創造都市論	主に創造都市論の観点からイタリアの地域研究を行う。
第7回	地域産業や地域活性に関する事例研究1	東京を中心とした関東地域の地方自治体の政策担当者や地域マネジメントを行う民間企業などの課題を検討していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域に関連した情報を意識する。また、講義で提示する事例のほかに、地域活性にかかわるニュース素材など、身近に起こった社会現象について関心を持つようにする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。必要に応じて参考文献を紹介する。

【参考書】

清成忠男（2010）『地域創生への挑戦』有斐閣
影山喜一編（2008）『地域マネジメントと起業家精神』雄松堂
佐々木雅幸（2001）『創造都市への挑戦』岩波書店
増田寛也編（2014）『地方消滅』中公新書
人口戦略会議編（2024）『地方消滅2』中公新書
田中輝美（2021）『関係人口の社会学』大阪大学出版会

【成績評価の方法と基準】

講義中の討議（20%）・発表（30%）
期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はハイフレックス形式で講義をおこなった。今年度も対面やZoomの良さを生かしつつ、調整して講義を行っていききたい。

【学生が準備すべき機器他】

課題レポートは授業支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

質問、講義内容への要望は基本的にメールで受け付けます。
オフィスアワーは木曜日の3限です。

【Outline (in English)】

In regional management, we will grasp the various issues that the region has, and consider solutions based on past cases. Then, the purpose is to be able to work as a practitioner himself.

For that purpose, the first half of the lesson will first study the theory of local industries and regional revitalization, especially from the perspective of local industrial clustering. In the second half, after examining past case studies of regional revitalization, we will examine various issues related to current regional revitalization

ARSk520Q2（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 500)

地域文化と教育特論

杉浦 ちなみ

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりに文化と教育が果たす役割について、これまでの歴史を振り返りながら、文献および各地の事例から考える。

【到達目標】

本授業では、市民一人ひとりが文化を楽しみ学ぶことで地域がつくられていく道筋について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第2回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第3回	テキスト輪読②	第2回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第4回	テキスト輪読③	第3回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第5回	テキスト輪読④	第4回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第6回	関連テーマVTR視聴 I	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第7回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第8回	テキスト輪読⑥	第7回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第9回	テキスト輪読⑦	第8回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第10回	テキスト輪読⑧	第9回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第11回	関連テーマVTR視聴 II	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第12回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第13回	テキスト輪読⑩	第12回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第14回	まとめ	テキスト全体を通じた議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、担当者はレジュメを用意する。担当者以外はテキスト等に事前に目を通し、疑問点や論点を挙げる。授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加50%、指摘課題・報告内容50%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 教育学、社会教育・生涯学習論、地域文化論

＜研究テーマ＞ 地域文化の伝承に教育・文化行政が果たす役割についての歴史的探究

＜主要研究業績＞

「1980年代の「郷土教育」をめぐる論争と実践―鹿児島県を事例に―」（教育学研究87(4)、2020）

『地域文化の再創造―暮らしのなかの表現空間』（共著、水曜社、2024）

『地域に根ざす民衆文化の創造―「常民大学」の総合的研究』（共著、藤原書店、2016）

『成人教育と文化の発展』（共訳、東洋館出版社、2016）

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will consider the role of culture and education in developing communities through case studies from various regions.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students will be able to learn about the way in which citizens can develop their community through enjoying and learning about culture.

【Learning activities outside of classroom】 The student in charge of reporting will prepare a resume. Other students are required to read the text in advance and raise questions and points to discuss. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following :

in-class contribution : 50%, Report content : 50%

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

キャリアと雇用の経済学 1

梅崎 修

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学と言うと、市場の分析であると考えの方も多いと思います。もちろん、労働市場の分析はキャリアや雇用にとって重要なテーマですが、それ以外に組織マネジメントや人事に対しても経済学は様々な研究蓄積があります。最近では、行動経済学など心理学と境界領域の経済学、また制度派経済学にはインタビューを多用する研究の伝統があり、産業・労働社会学や人的資源管理論とも学際的な研究を続けてきました。この授業では、受講生の関心テーマを考慮しつつ、人的資本、情報の非対称性、インセンティブなどの理論・概念を学びます。人事管理と組織デザインの具体的事例を知るだけでなく、それらを分析できる思考を身に付け、論文を書く能力を身につけることを目標としています。論理的思考方法と多様な調査方法の習得は、実際のビジネス意思決定にも役立つでしょう。なお、キャリアと雇用の経済学2では、調査方法論について講義します。

【到達目標】

経済学の理論を理解し、研究の枠組みとして使えることを目標とする。具体的には、組織や人事制度、組織内行動の解釈をインセンティブ理論や人的資本理論などによって説明可能になることなどを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人事経済学（Personnel Economics）の理論と調査事例を解説します。理論と概念を解説した後に、具体的な企業事例を紹介し、参加者と議論します。理論解説→分析事例の紹介→議論という流れの中で、論理的思考方法を学びます。なお、授業は2回連続で行い、半期で終了します。課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業時間内とオフィスアワーを通じて行う予定です。また、対面での授業を考えております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	経済学・経営学の中でのキャリアと雇用モデル分析	経済学・経営学の学び方について説明する。経済学の思考方法を学ぶ
2回(3・4)	情報の経済学	情報の非対称性とシグナリング理論を解説した上で、就職・転職などの調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
3回(5・6)	内部労働市場論	取引費用の発生と内部労働市場論を解説した上で、取引費用の発生と内部労働市場論の調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
4回(7・8)	人的資本	人的資本理論、企業特殊的熟練を解説した上で、調査研究を紹介する。
5回(9・10)	組織内競争とインセンティブ設計	競争と動機付け、労働経済学の理論を解説した上で、調査研究を紹介する。
6回(11・12)	日本的雇用システムの歴史	日本的雇用システムの研究史について紹介する。

7回(13・14)

全体のまとめ、講義の振り返りを行う。理解度が不足しているトピックスについて補足説明をしながら研究の実践的意味についても議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習として、関連論文1本を読んでもらいます。学部レベル教科書の予習は理論の解説の事前準備になりますし、関連論文の予習は受講生とのディスカッションの前提となります。調査方法の解説と研究事例紹介は、皆さんが修士論文を書く時に役立つでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、各4-5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使わずに、レジュメを配布しながら解説します。ただし、講義前に参考文献を読んでもらいます。

【参考書】

参考文献

小池和男（2005）『仕事の経済学』（東洋経済新報社）
ラジアー（2000）『人事と組織の経済学』（樋口・清家訳：日本経済新聞社）(Lazear, E. “Personnel Economics for Managers” John Wiley & Sons Inc)

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）・・・議論への参加を評価します。
レポート課題（50％）・・・議論を発展させたレポート課題を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

理論の紹介に関しては、基礎的文献や教科書を紹介して理解を深めるようにします。事例紹介では、修士論文作成を意識して解説・議論します。

【その他の重要事項】

キャリアと雇用の経済学1、2は、前者が理論・仮説の説明、後者が調査方法論の説明を行う。それぞれ独立した内容になっているが、両方受講することが望ましい。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>労働経済学、人的資源管理、教育経済学

<主要研究業績>

単著『日本のキャリア形成と労使関係—調査の労働経済学』（慶應義塾大学出版会,2021）

共編著『問いから考える人材マネジメントQ&A』（中央経済社,2024）

共編著『日本の人事労務研究』（中央経済社,2023）

共著『日本の雇用システムをつくる1945－1995：オーラルヒストリーによる接近』（東京大学出版会,2023）

共著『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣,2020）

共編著『大学生の内定獲得—就活支援・家族・きょうだい・地元をめぐって』（法政大学出版局,2019）

共編著『学生と企業のマッチングデータによる探索』法政大学出版局,2019）

【Outline (in English)】

This course will overview major topics in personnel and organization economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend about 4-5 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process

Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN520Q2（経営学 / Management 500）

キャリアと雇用の経済学2

梅崎 修

備考（履修条件等）：人材育成・生活・ウェルビーイング創造群

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学と言うと、市場の分析であると考えの方も多いと思います。もちろん、労働市場の分析はキャリアや雇用にとって重要なテーマですが、それ以外に組織マネジメントや人事に対しても経済学は様々な研究蓄積があります。最近では、行動経済学など心理学と境界領域の経済学、また制度派経済学にはインタビューを多用する研究の伝統があり、産業・労働社会学や人的資源管理論とも学際的な研究を続けてきました。この授業では、大きく前半と後半に分けて授業をします。労働・職場調査の様々な方法（質的、量的調査）について講義します。人事管理と組織デザインの具体的事例を知るだけでなく、それらを分析できる思考を身に付け、論文を書く能力を身につけることを目標としています。多様な調査方法の習得は、実際のビジネス意思決定にも役立つでしょう。なお、キャリアと雇用の経済学1では、理論と研究の講義を行っています。

【到達目標】

労働職場調査・分析手法を使いこなせることを目指します。具体的には、修士論文作成のために必要な計量分析やインタビュー調査などの実証方法も「分析結果を読める」ことはもちろんですが、「自分で分析できる」までになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

『労働職場調査ガイドブックー多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社、2019）をサブテキストにして、統計分析から質的調査までを実践的に学びます。なお、授業は2回連続で行い、半期で終了します。課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業時間内とオフィスアワーを通じて行う予定です。また、対面での授業を考えております。キャリアと雇用の経済学1では理論を解説しているので、1、2をセットで受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	問いの立て方、論文の読み方、議論の仕方、研究計画の立て方	研究デザインについて講義する。 問い→テーマ設定→理論検討 →調査デザインの流れを理解する。
2回(3・4)	労働・職場調査とは？	『労働・職場調査ガイドブック』を使いながら、調査の全体像をつかむ。文献の探し方や官庁統計の使い方も講義します。
3回(5・6)	職場の聞き取り調査	職場の聞き取り調査を説明した上で、スキルと分業体制の研究を紹介する。
4回(7・8)	観察法・会話分析・エスノグラフィー	観察法・会話分析・エスノグラフィーの解説をした上で、研究事例を紹介する。
5回(9・10)	人事マイクロデータの統計分析	人事マイクロデータを使った研究を紹介した上で、実際の人事マイクロデータを使って統計分析を行います。
6回(11・12)	オーラルヒストリーの説明	語りを分析する、オーラルヒストリーの解説をした上で、研究を紹介する。

7回(13・総括14)

全体のまとめ、講義の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習として、関連論文1本を読んでもらいます。学部レベル教科書の予習は理論の解説の事前準備になりますし、関連論文の予習は受講生とのディスカッションの前提となります。調査方法の解説と研究事例紹介は、皆さんが修士論文を書く時に役立つでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、各4～5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使わずに、レジュメを配布しながら解説します。ただし、講義前に参考文献を読んでもらいます。また、調査方法については、以下の本（一部）を使って解説します。調査方法習得に役立つと思います。

梅崎修・池田心豪・藤本真『労働職場調査ガイドブックー多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社）

【参考書】

参考文献

小池和男（2005）『仕事の経済学』（東洋経済新報社）

ラジャー（2000）『人事と組織の経済学』（樋口・清家訳：日本経済新聞社）(Lazear, E. “Personnel Economics for Managers” John Wiley & Sons Inc)

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）・・・議論への参加を評価します。

レポート課題（50％）・・・議論を発展させたレポート課題を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

修士論文のための調査法を意識して解説・議論します。統計分析、インタビュー調査の習得を意識します。

【その他の重要事項】

キャリアと雇用の経済学1、2は、前者が理論・仮説の説明、後者が調査方法論の説明を行う。それぞれ独立した内容になっているが、両方受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course will overview research methods in personnel and organization economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend about 4-5 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

OTR530Q2（その他 / Others 500）

特別講義（九州地域創生論）

岡野 秀之

備考（履修条件等）：特別講義科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

九州を題材にして、地方の地域経済・地域産業が抱える実態や課題を捉え、課題解決を図ろうとする「地域創生」の取り組みについて理解を深めます。

具体的に、農業や半導体産業などの外貨を稼ぐ「基盤産業」を取り上げ、地域産業政策のあり方について考えます。加えて、成長著しい福岡市の都市開発戦略や、武雄市や日南市などの中小都市・過疎地域の「地域づくり」を取り上げ、都市や農山村がそれぞれが抱える課題を理解し、官民連携による地域振興政策や各種の実践のあり方について考えます。

講義を通じて、「地域創生」に求められる考え方や実践力を高めます。

【到達目標】

講義を通じて、九州の「地域」が抱える実態や課題を捉え、「創生」に向けた政策や実践についての理解を深めます。その上で、それらの課題や取り組みについて、ディスカッションを通じて深化させ、課題解決に向けた新しいアイデアを考えていきたいと思います。最終的には、ひとり1テーマを定めて、九州の「地域創生」に向けた提言をショートレポートもしくはレジュメとして取りまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワンテーマ2コマを割り当て、講義とディスカッションを繰り返し、2コマ完結で進めていくようにします。ディスカッションの質を高めるため、リアルタイムでデータや情報を参照しながら授業を進めていきます。自ら考え、発言し、周りの意見を聞き、ワンテーマごとに自分の考え方をとりまとめていくようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	オリエンテーション 九州経済のアウトライン	講義の目的と成果目標 九州の経済社会の概観 討議テーマ：九州経済・産業・地域の特徴とポテンシャルについて
2回(3・4)	九州の産業構造と基盤産業 農業～アグリプレナーが拓く農業進化論	外貨を稼ぐ基盤産業 農業の高付加価値化 討議テーマ：持続可能な農業をつくるには
3回(5・6)	半導体産業～新生シリコンアイランドに向けた再始動	半導体の世界的潮流と経済安全保障 シリコンアイランド九州のポテンシャルと半導体産業政策 討議テーマ：九州の半導体産業の進化を促すには
4回(7・8)	情報通信産業～情報の産業化とDXによる産業の情報化	既存産業×情報産業による産業の付加価値化 討議テーマ：DXによる社会課題解決とイノベーションについて

5 回（9・10）九州の地域構造と都市の再構築

人口の配置と都市構造・都市機能
人口減少下の地域づくり
討議テーマ：均衡ある地域の発展と多様な地域づくりを促すには
都市の開発主体と発展戦略
ネット時代・働き方改革時代の都心の機能と役割
討議テーマ：持続的に都市の発展と成長を促すには
九州広域圏地方計画とインフラ整備のあり方
討議テーマ：九州の「地域創生」の深化させるアイデアについて

6 回（11・12）福岡市の都市戦略～双子都市

7 回（13・14）九州の「地域創生」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「地域創生」につながるヒントや気づきは、日常生活のなかにも多く眠っています。日頃からアンテナを立てて情報を収集し、思考を整理し、ディスカッションの機会に発言してください。

【テキスト（教科書）】

『図説九州経済 2025』公益財団法人九州経済調査協会、2024 年、2,200 円

『地域創生のデザイン』山崎朗編著、中央経済社、2015 年、2,640 円（2025 年に続編の『地域創生の新しいデザイン（仮題）』刊行予定）

【参考書】

データサラダ DATASALAD：https://datasalad.jp

おでかけウォッチャー：https://odekake-watcher.info

『九州経済白書 2016 年版 中核企業と地域産業の新陳代謝』岡野秀之編著、九州経済調査協会、2016 年

『九州経済白書 2015 年版 都市再構築と地方創生のデザイン』岡野秀之編著、九州経済調査協会、2015 年

『九州経済白書 2014 年版 アグリプレナーが拓く農業新時代』岡野秀之編著、九州経済調査協会、2014 年

【成績評価の方法と基準】

ワンテーマごとのディスカッションでの「発言」を評価します。加えて、最終講義時に、九州の「地域創生」に向けた「提言」をショートレポートもしくはレジュメとして取りまとめていただきます。成績評価は 100 点とし、発言を 40 点、提言を 60 点として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの新規科目につきフィードバックはありません。次年度以降の改善のため、最終講義で授業改善アンケートを行います。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続でき、chrome（インターネットブラウザ）をインストールした「パソコン」を持参して講義に臨んでください。

【その他の重要事項】

本講義の講師は、シンクタンクに勤務しており、九州をフィールドとして、地域経済・地域産業に関する調査分析や地域産業政策の立案を行なっています。日々、さまざまな地域経済データに向き合い、収集・整理・分析を行うなか、データの収集・整理を簡略化し、分析やその後のアクションに思考に時間をかけるべく、地域経済データをクラウドで提供する「データサラダ DATASALAD」の開発・運営をしています。講義では、「データサラダ」を実際に使いつつ、地域の実態や課題を可視化しつつ、新たな気づきや発見を体感しながら進めていきたいと思います。インターネットにつながるパソコン持参で講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

We will learn about the actual situation and issues of regional economy and leading industry in KYUSHU, so we will also deepen their understanding of problem-solving efforts "regional revitalization".

Specifically, we will focus on "leading industries" such as agriculture industry and semiconductor industry and consider the form of regional industrial policy.

In addition, we will discuss the urban development strategy of Fukuoka City, which is experiencing rapid growth, and regional development in small and medium-sized cities. We will understand the issues that cities and rural areas face, and consider "regional development policies" and various practices through public-private collaboration. Through lectures, we will enhance the way of thinking and practical skills required for "regional revitalization".

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習A

石山 恒貴

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4回	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5回	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6回	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7回	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8回	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9回	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10回	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11回	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察をする手法の検討（その3）
12回	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13回	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）
14回	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通年の演習のために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習B

石山 恒貴

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。

【到達目標】

「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。

また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。

論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスションの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2回	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3回	研究テーマの調査方法（その1）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その1）
4回	研究テーマの調査方法（その2）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その2）
5回	研究テーマの調査方法（その3）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その3）
6回	調査結果の分析方法（その1）	調査結果の分析手法の検討（その1）
7回	調査結果の分析方法（その2）	調査結果の分析手法の検討（その2）
8回	調査結果の分析方法（その3）	調査結果の分析手法の検討（その3）
9回	調査結果から考察する方法（その1）	調査結果から考察する手法の検討（その1）
10回	調査結果から考察する方法（その2）	調査結果から考察する手法の検討（その2）
11回	調査結果から考察する方法（その3）	調査結果から考察する手法の検討（その3）
12回	提言の検証方法（その1）	提言を検証する方法の検討（その1）
13回	提言の検証方法（その2）	提言を検証する方法の検討（その2）
25・26回	調査と研究について	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通年での演習のために

1. 自身の調査研究テーマの推進
2. ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
3. 各人に与えられた課題の処理
4. 合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】

参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】

大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。

特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】

ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.

Goal

At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習A

高尾 真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】

先行研究を適切に読み込み、質的または量的調査の実証分析による修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
2回	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3回	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
4回	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
5回	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
6回	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
7回	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
8回	リサーチクエスションの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスションを設定する
9回	リサーチクエスションの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスションを設定する
10回	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
11回	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
12回	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14回	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。

その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011年, 東京大学出版会

上野千鶴子『情報生産者になる』2018年, ちくま新書

岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 Vol.2 M-GTAによるキャリア研究』2021年, 晃洋書房

佐藤郁哉『社会調査の考え方(上下)』2015年, 東京大学出版会

佐藤郁哉『リサーチ・クエスションとは何か?』2024年, ちくま新書
その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加と研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活性化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

※授業の内容やスケジュールは変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習B

高尾 真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】

質的または量的分析を活用した修士論文を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、フィールドワーク、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
2回	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
3回	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
4回	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
5回	フィールドワーク結果の分析	フィールドワーク結果をもとにグループワークで分析を実施する。
6回	フィールドワーク結果の発表	フィールドワークの分析結果を発表する
7回	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
8回	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
9回	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
10回	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
11回	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
12回	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
13回	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。
14回	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』2011年、東京大学出版会
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学 M-GTAによるキャリア研究』2017年、晃洋書房

【成績評価の方法と基準】

演習への参加と研究発表による。

【学生の意見等からの気づき】

研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活性化させる。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

※授業の内容・スケジュールは変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習A

増淵 敏之

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ること目標とする。

修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆すること目標とする。

【到達目標】

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標とする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス/ guidance	授業の進め方について説明を行う / Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表/ Announcement of research plan	研究計画の発表 / Announcement of research plan
3回	研究計画の発表/ Announcement of research plan	研究計画の発表 / Announcement of research plan
4回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法 / Procedure and method of writing a dissertation
5回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献の作成法 / Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回（13・14）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation

12回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員によるまとめ / summary
14回	まとめ/summary	本年度の振り返り / Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

授業内容は適宜、変更もあり得る。
オフィスアワーは毎週月曜日16～18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習B

増淵 敏之

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年次の学生には専門性の高い教育に慣れってもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ること目標とする。

修士2年次の学生には具体的に修士論文を執筆すること目標とする。

【到達目標】

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標とする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならない、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士2年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス/ guidance	授業の進め方について説明を行う / Explain how to proceed with the class
2回	研究計画の発表/ Announcement of research plan	研究計画の発表 / Announcement of research plan
3回	研究計画の発表/ Announcement of research plan	研究計画の発表 / Announcement of research plan
4回	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法 / Procedure and method of writing a dissertation
5回	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献の作成法 / Format requirements for papers and how to create a bibliography
6回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9回	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation

12回	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13回	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer、担当教員による まとめ/Summary by the teacher in charge
14回	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】

とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究発表による評価50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】

授業内容は適宜、変更もあり得る。
オフィスアワーは毎週月曜日16～18時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習A

上山 肇

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、
「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題
についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向
けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状
況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第2回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第3回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第4回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第5回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第6回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第7回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第8回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第9回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第10回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

第11回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第12回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第13回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第14回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

[Learning Objectives]

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

[Learning activities outside of classroom]

Preparation for presentation.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習B

上山 肇

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文作成に向けた演習

【到達目標】

各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、
「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題
についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向
けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状
況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第2回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第3回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第4回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第5回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第6回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第7回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第8回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第9回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第10回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

第11回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第12回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第13回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
第14回	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.

[Learning Objectives]

Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation

[Learning activities outside of classroom]

Preparation for presentation.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習A

北郷 裕美

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光およびメディアである。

【到達目標】

ゼミ受講を通して無理なく、論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどを中心に進める。また、視聴覚教材の使用も積極的に行う。さらに個人の進捗に応じた個別指導を並行して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2回	論文作成に向けた演習①	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3回	論文作成に向けた演習②	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
4回	論文作成に向けた演習③	研究計画個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
5回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』 個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』 個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』 視聴後グループディスカッション
8回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』 個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
9回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』 個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』 個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
11回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』 視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
12回	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学後グループディスカッション

13回	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る グループディスカッションと振り返りを行う
14回	夏休みの調査・研究の準備	各々が夏休み中にどのような調査研究を行うのかプランを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社
そのほか各回の演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

【参考書】

その都度提示する 基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している

【成績評価の方法と基準】

メディア学、観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【Outline (in English)】

In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習B

北郷 裕美

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特にメディア学、観光学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】

論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

修士1年次の学生は2年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作る

ようにすることを到達目標にする。

修士2年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文とし

て認められるものを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の発表を基本に進める。校外学習（フィールドワーク）は合同ゼミ合宿を想定して行う（予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	秋学期ガイダンス 夏休み中の研究進捗・調査内容の報告	秋学期へのプラン発表 受講生各々が研究とスケジュール発表を行う
2回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション①	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
3回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション②	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
4回	社会学思考についての学びとディスカッション	『映画視聴』視聴後グループディスカッションと振り返りを行う
5回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション③	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション④	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑤	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
8回	ゼミ越境授業 見学会	フィールドワーク調査演習を兼ねる 見学会後グループディスカッションと振り返りを行う
9回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑥	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10回	研究テーマを踏まえた学びとディスカッション⑦	『既存先行論文購読』個々の先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
11回	修士論文の口述試験 予行演習 ゼミ内報告	修士論文の構想を発表 確認 ディスカッション

12回	M2修論中間発表 準備演習	修士論文の全体について報告する
13回	外部講師による講義	観光メディアプログラム・ゼミ全体に関わる知見を得る グループディスカッションと振り返りを行う
14回	ビブリオバトル発表 会 ゼミ振り返り	個々のテーマに沿ったおすすめの既存文献をプレゼン発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習に必要な論文や資料は毎回HOPPIIにアップロードもしくはコピーして配布する。

【参考書】

その都度提示する 基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している また関連する既存の各種論文を読み解く機会も設けたい

【成績評価の方法と基準】

メディア学、観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に資料の共有等、情報機器（ノートパソコン、タブレット等）を用意いただきたい

【その他の重要事項】

ゼミへの積極的な参加を望む。やむを得ず欠席する際は事前に申し出ること。

【Outline (in English)】

In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

ECN600Q2（経済学 / Economics 600）

地域創造演習A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。本演習の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN600Q2（経済学 / Economics 600）

地域創造演習B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。本演習の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN600Q2（経済学/Economics 600）

地域創造演習A

田中 優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、研究活動を遂行するために必要な関連研究のリサーチ方法や論文執筆の作法、仮説設計の方法について学ぶ。また、調査手法としてケーススタディ、フィールドスタディ、質問票調査、計量統計学、実験的研究、自然言語処理などを学び、実際に研究を進めるための実践的なスキルを養う。

【到達目標】

- ・研究活動を遂行するために必要な知識を獲得し、自身の独自の研究課題に対して援用する能力を身につける。
- ・研究論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査や輪読を通じて高度な専門知識を習得し、指導教員からの助言を受けて自らの論文を議論することで、研究者としての素養を養う。また、指導教員の研究プロジェクトに参加し、実践的な経験を積む。授業は対面やZoom、メール等で進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	各自の研究テーマを報告する。 文献サーベイの手法を案内する。
第2回	研究手法の案内 文献サーベイ	研究手法を概観する。
第3回	文献サーベイと仮説 設計①	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第4回	文献サーベイと仮説 設計②	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第5回	文献サーベイと仮説 設計③	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第6回	文献サーベイと仮説 設計④	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第7回	研究計画①	自らの研究計画を立てる。
第8回	研究計画②	自らの研究計画を立てる。
第9回	研究計画③	自らの研究計画を立てる。
第10回	研究計画④	自らの研究計画を立てる。
第11回	ワークショップ発表 への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	ワークショップ発表 への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連研究の調査、自身の研究計画の推敲、必要な専門知識の調査を常に行うこと。次回講義までに1日最低30分を費やすこと。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含める）。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

オンラインの場合は、WIFI環境、議論ができる環境。

【その他の重要事項】

本講義は子供を帯同しての受講を認める。そのほか受講にあたって配慮が必要な場合は相談してほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to equip students with the essential skills for conducting research and writing academic papers. It covers research techniques for related studies, proper writing practices, and methods for hypothesis design. Additionally, students will learn and practice various research methods, including case studies, field studies, surveys, quantitative research, experimental research, and natural language processing, to enhance their ability to carry out research effectively.

ECN600Q2（経済学/Economics 600）

地域創造演習B

田中 優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、研究活動を遂行するために必要な関連研究のリサーチ方法や論文執筆の作法、仮説設計の方法について学ぶ。また、調査手法としてケーススタディ、フィールドスタディ、質問票調査、計量統計学、実験的研究、自然言語処理などを学び、実際に研究を進めるための実践的なスキルを養う。

【到達目標】

- ・研究活動を遂行するために必要な知識を獲得し、自身の独自の研究課題に対して援用する能力を身につける。
- ・研究論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査や輪読を通じて高度な専門知識を習得し、指導教員からの助言を受けて自らの論文を議論することで、研究者としての素養を養う。また、指導教員の研究プロジェクトに参加し、実践的な経験を積む。授業は対面やZoom、メール等で進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究進捗報告	夏季休暇中に実施した研究の進捗を報告する。
第2回	研究計画①	長期的目線に立って研究計画を調整する。
第3回	調査①	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第4回	調査②	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第5回	調査③	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第6回	調査④	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第7回	調査⑤	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第8回	調査⑥	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第9回	調査報告①	調査結果を報告する。
第10回	調査報告②	調査結果を報告する。
第11回	ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など

第13回	ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	秋学期の研究成果をまとめ、改めて研究計画を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連研究の調査、自身の研究計画の推敲、必要な専門知識の調査を常に行うこと。次回講義までに1日最低30分を費やすこと。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含める）。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

オンラインの場合は、WIFI環境、議論ができる環境。

【その他の重要事項】

本講義は子供を帯同しての受講を認める。そのほか受講にあたって配慮が必要な場合は相談してほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to equip students with the essential skills for conducting research and writing academic papers. It covers research techniques for related studies, proper writing practices, and methods for hypothesis design. Additionally, students will learn and practice various research methods, including case studies, field studies, surveys, quantitative research, experimental research, and natural language processing, to enhance their ability to carry out research effectively.

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習A

梅崎 修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生を対象に、修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習Aでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Aでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。土曜日午後中心に授業、進捗に合わせて個別指導を組み合わせて実施する。指導学生の予定に合わせて柔軟に対応する予定である。

修士論文の執筆過程で、研究科で実施する修士論文の中間報告会において報告が求められる。なお、本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いているが、修士1年と修士2年ではそれぞれ進捗が異なる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて自由議論を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討(1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて選定された研究テーマ案について議論を行う。
第4回	先行研究の検討(1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討する。
第5回	先行研究の検討(2)	研究テーマに関連する先行研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第6回	先行研究の検討(3)	作成した先行研究の整理について授業内で報告してもらい、議論を行う。
第7回	研究方法の決定、調査内容等の検討(1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討(2)	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討(3)	前回授業で設定した調査対象、調査時期、調査内容の計画案について議論する。
第10回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(1)	調査結果について報告してもらい、その内容について適宜指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(2)	調査結果の検討に基づいて、調査計画の調整を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導(3)	追加的な調査の結果について議論する。
第13回	研究の中間とりまとめ(1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第14回	研究の中間とりまとめ(2)	中間報告に向けた報告案を作成してもらい、その内容について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と演習内での報告内容を総合的に評価する。修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Aでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following in-class contribution(100%).

OTR600Q2（その他 / Others 600）

地域創造演習B

梅崎 修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生を対象に、修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習Bでは、調査の実施、調査結果の解釈、分析結果の考察を中心に習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など—を習得する。

このうち演習Bでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。土曜日午後を中心に授業、進捗に合わせて個別指導を組み合わせる。指導学生の都合を考慮して柔軟に対応する。

修士論文の執筆過程で、研究科で実施する修士論文の中間報告会において報告が求められる。なお、本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いているが、修士1年と修士2年ではそれぞれ進捗が異なる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習A、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認(1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認(2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスションの検討。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。

第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(4)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導(5)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第9回	論文執筆の助言、指導(1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導(2)	データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第11回	論文執筆の助言、指導(3)	論文で使われる用語の確認を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第12回	論文執筆の助言、指導(4)	研究の今後の課題を検討し、学術論文へと仕上げていく。論文の限界についての検討
第13回	論文の最終チェック(1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第14回	論文の最終チェック(2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Bでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the master program. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following in-class contribution(100%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習A

水野 雅男

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、修士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。先行研究のレビューを重ねながら、問いをたて、研究仮説とテーマを組み立てる。

【到達目標】

修士論文作成の技術を習得するようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成計画の検討①	論文作成の流れの確認
第2回	論文作成計画の検討②	論文の構成案の検討
第3回	論文作成計画の検討③	研究作業スケジュールの確認
第4回	先行研究のレビュー①	関連テーマ①に関する検索結果
第5回	先行研究のレビュー②	関連テーマ①の主要論文の概要
第6回	先行研究のレビュー③	関連テーマ②に関する検索結果
第7回	先行研究のレビュー④	関連テーマ②の主要論文の概要
第8回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の概要整理
第9回	研究仮説の検討①	先行研究から導き出された「問い」の提示
第10回	研究仮説の検討②	「問い」の深掘り
第11回	研究仮説の検討③	研究仮説の提示
第12回	研究仮説の検討④	研究仮説の修正
第13回	研究方法の検討①	量的調査手法の検討
第14回	研究方法の検討②	質的調査手法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Students will learn practical ways of thinking and methods necessary for writing a master's thesis in the field they are interested in. Through repeated reviews of previous research, students will formulate questions and develop research hypotheses and themes.

【Goal】

Students will acquire the skills to write a master's thesis.

【Method(s)】

The schedule and method of guidance and advice will be decided in consultation with the student based on the student's area of interest.

Submission of assignments for each class and feedback will be given through the "Learning Support System."

【Grading criteria】

Evaluation will be based on normal marks (100%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習B

水野 雅男

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、修士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。
調査データの分析、研究の構成を組み立て、論文執筆を指導する。

【到達目標】

修士論文作成の技術を習得するようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究構成の検討①	研究のフローの確認
第2回	研究構成の検討②	研究の章立て案の確認
第3回	研究構成の検討③	研究の章立ての修正
第4回	データ収集分析①	調査データの整理
第5回	データ収集分析②	調査データの図表作成
第6回	データ収集分析③	調査データの分析
第7回	データ収集分析④	分析結果の考察
第8回	論文執筆の指導①	序章に関する指導助言
第9回	論文執筆の指導②	調査対象・研究の方法に関する指導助言
第10回	論文執筆の指導③	調査結果分析に関する指導助言
第11回	論文執筆の指導④	考察素案に対する指導助言
第12回	論文執筆の指導⑤	考察修正に対する指導助言
第13回	論文投稿の指導①	学会への投稿に向けた技術的な指導
第14回	論文投稿の指導②	同上に向けた構成内容の吟味指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Students will learn practical ways of thinking and methods necessary for writing a master's thesis in the field they are interested in. We will analyze survey data, organize your research, and provide guidance on writing your thesis.

【Goal】

Students will acquire the skills to write a master's thesis.

【Method(s)】

The schedule and method of guidance and advice will be decided in consultation with the student based on the student's area of interest.

Submission of assignments for each class and feedback will be given through the "Learning Support System."

【Grading criteria】

Evaluation will be based on normal marks (100%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習A

図司 直也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータ収集の方法やプロセスを学び、自分のテーマに沿った実践を通して修士論文作成に役立てる。

【到達目標】

修士論文における研究方法を確定し、調査準備を具体的に進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

社会調査の基礎およびフィールド調査の方法論にかかわる文献の精読やディスカッション、実際の現場でのフィールドワークによって授業を進めることになる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更はありうる。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の進め方について受講者と相談の上、決定する。
第2回	データ収集の基礎的理解	データ収集の方法について、テキスト等をもとに学ぶ。
第3回	データ収集方法の検討	自分のデータ収集の方法を検討する。
第4回	データ収集の実践	実際にデータ収集を行う。
第5回	収集データ内容の検討	収集したデータの内容を分析する。
第6回	研究手法の基礎的理解	研究テーマに応じた実証方法を学ぶ。
第7回	研究手法の検討	自分の研究テーマに応じた実証方法を検討する。
第8回	研究手法の設定	自分の研究テーマに応じた実証方法を設定する。
第9回	研究手法の再検討	議論を踏まえて、自分の実証方法を再検討する。
第10回	関連研究方法の文献リストアップ	関連する先行研究のリストを作成する。
第11回	関連研究方法の文献探索と読解	関連する先行研究を収集し、目通しする。
第12回	関連研究方法の文献整理	関連する先行研究の内容を整理する。
第13回	関連研究方法の論点整理	関連する先行研究の論点を整理する。
第14回	中間総括と方針の検討	春学期の到達点と秋学期の方針をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究テーマについて、必要な作業を進め、授業内での報告に臨めるようにしておく。準備・復習時間として各2時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、プリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での作業・議論50%，発表・報告50%

【学生の意見等からの気づき】

2024年度はアンケートを実施していない。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We learn a method and a process of the data collection necessary for a study and make use for master's thesis making through the practice along own theme.

【Learning Objectives】 Decide the research method for the master's thesis and proceed with the survey preparation concretely.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare a class report on your research theme. Secure 2 hours each for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Work/discussion：50%, presentation/report：50%.

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習B

図司 直也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータ収集の方法やプロセスを学び、自分のテーマに沿った実践を通して修士論文作成に役立てる。

【到達目標】

修士論文における研究方法を確定し、調査準備を具体的に進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

社会調査の基礎およびフィールド調査の方法論にかかわる文献の精読やディスカッション、実際の現場でのフィールドワークによって授業を進めることになる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更はありうる。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の進め方について受講者と相談の上、決定する。
第2回	研究仮説の構築	自分で仮説を組み立てる。
第3回	研究仮説の設定	自分で仮説を設定する。
第4回	研究仮説の検討	仮説の実証の仕方を検討する。
第5回	研究仮説の再検討	議論を経て、仮説を再検討する。
第6回	研究対象・フィールドの候補出し	調査対象の候補を出す。
第7回	研究対象・フィールドの情報収集	調査対象の情報を収集する。
第8回	研究対象・フィールドの検討	調査対象が研究テーマに適切かどうかを検討する。
第9回	研究対象・フィールドの設定	調査対象を設定する。
第10回	調査準備の開始	具体的な調査準備を開始する。
第11回	調査準備の進捗共有	調査準備の状況を共有する。
第12回	調査準備の再検討	調査準備の状況に応じて再検討する。
第13回	調査準備の完了	調査準備を完了させる。
第14回	総括	1年間の到達点と今後の課題のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究テーマについて、必要な作業を進め、授業内での報告に臨めるようにしておく。準備・復習時間として各2時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、プリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での作業・議論50％、発表・報告50％

【学生の意見等からの気づき】

2024年度はアンケートを実施していない。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We learn a method and a process of the data collection necessary for a study and make use for master's thesis making through the practice along own theme.

【Learning Objectives】 Decide the research method for the master's thesis and proceed with the survey preparation concretely.

【Learning activities outside of classroom】 Prepare a class report on your research theme. Secure 2 hours each for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Work/discussion：50%, presentation/report：50%.

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習A

土肥 将敦

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任(CSR)や社会貢献活動、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、本演習の大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業者の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】

本演習の目標は、企業と社会の関係性を理解するとともに、コースの集大成としての修士論文を執筆することである。テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。大規模な文章を論理的に破綻することなく構成することは容易なことではない。その難しさを味わいながらも克服できるように、毎回のゼミでは周到な準備と討論が要求される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修論報告とディスカッションを基本としながら、フィールド調査（インタビュー調査・参与観察など含む）などの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期イントロダクション	半年間のスケジュールの確認と進捗状況の確認
第2回	各人の調査進捗状況の報告①	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第3回	各人の調査進捗状況の報告②	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②
第4回	各人の調査進捗状況の報告③	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う③
第5回	各人の調査進捗状況の報告④	各人が自分の関心あるテーマに基づき論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う。(まとめ)
第6回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成①	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する①
第7回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成②	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する②
第8回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成③	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する③
第9回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する①
第10回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する②
第11回	インタビュー調査の報告③	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する③
第12回	インタビュー調査の報告④	インタビュー調査の概要の報告をふまえて、再度問いを考察する。
第13回	各人の調査進捗状況の報告①	論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第14回	各人の調査進捗状況の報告②	論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義時間外にもインタビュー調査を行ってもらう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義中に適宜指示する。

【参考書】

土肥将敦(2022)『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
 谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版
 佐藤郁哉(2021)『はじめての経営学 ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社
 佐藤郁哉（2006）『フィールドワーカー書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】

ゼミへのコミットメント・平常点（50％）、ゼミでの報告内容（50％）。具体的方法と基準は、授業開始日にガイダンスと学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大切にします。

【Outline (in English)】

How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following: Final reports and presentations(50%), in class contribution(50%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習B

土肥 将敦

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と社会のインターフェースにかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任(CSR)や社会貢献活動、企業とNPO/NGOのコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSRは近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、本演習の大きな研究テーマの1つになる。また、企業社会を理解する上でNPOやNGOの存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業者の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】

本演習の目標は、企業と社会の関係性を理解するとともに、コースの集大成としての修士論文を執筆することである。テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。大規模な文章を論理的に破綻することなく構成することは容易なことではない。その難しさを味わいながらも克服できるように、毎回の演習では周到な準備と討論が要求される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修論報告とディスカッションを基本としながら、フィールド調査などの学外活動を通して、総合的な理解を目指していきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	後期イントロダクション	半年間のスケジュールの確認と進捗状況の確認
第2回	各人の論文の調査進捗状況の報告①	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う①
第3回	各人の論文の調査進捗状況の報告②	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う②
第4回	各人の論文の調査進捗状況の報告③	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う③
第5回	各人の論文の調査進捗状況の報告④	各人が自分の関心あるテーマに基づき、論文執筆に必要な基礎文献や先行研究に関する報告を行う。(まとめ)
第6回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成①	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する①
第7回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成②	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する②
第8回	調査対象先の情報収集とインタビューシートの作成③	インタビューシートを作成し、インタビューイーにアポイントをとり調査を実施し、現状を報告する③
第9回	インタビュー調査の報告①	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する①
第10回	インタビュー調査の報告②	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する②
第11回	インタビュー調査の報告③	インタビュー調査の概要を報告し、既存研究をふまえて整理する③
第12回	インタビュー調査の報告④	インタビュー調査の概要の報告をふまえて、再度問いを考察する。
第13回	各人の修士論文の調査進捗状況の報告①	修論全体のまとめ報告を行う①
第14回	各人の修士論文の調査進捗状況の報告②	修論全体のまとめ報告を行う②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義時間外にもインタビュー調査を行ってもらう予定である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義中に適宜指示する。

【参考書】

土肥将敦(2022)『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房
谷本・大室・大平・土肥・古村（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版
佐藤郁哉(2021)『はじめての経営学 ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社
佐藤郁哉（2006）『フィールドワーカー書を持って街へ出よう』新曜社

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミでの報告（50％）、ゼミへのコミットメント・平常点（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大切にする。

【Outline (in English)】

How can organizations achieve greater social impact through social entrepreneurship? This seminar(Zemi) explores how to utilize social entrepreneurship or Corporate Social Responsibility to generate social impact in our society.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Presentations(50%), in class contribution(50%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習A

野田 岳仁

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会においてフィールドワークを行い、地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム、地域環境などの政策にかかわる修士論文を執筆するために環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法をマスターすることを目的としている。

【到達目標】

フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法、論文執筆の作法を身につけることができる。これらの技能を修得することを通じて、高度な修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本演習では主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第2回	論文の構成（1）	テーマと問いの設定方法
第3回	論文の構成（2）	方法論や調査技法の選択
第4回	論文の構成（3）	対象と方法の選択
第5回	論文の構成（4）	目次と章立ての検討
第6回	論文の構成（5）	理論仮説を立てる
第7回	論文の構成（6）	作業仮説を立てる
第8回	論文の構成（7）	分析の問題点の検証
第9回	論文の構成（8）	研究の意義と限界の検討
第10回	先行研究のレビュー（1）	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第11回	先行研究のレビュー（2）	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第12回	先行研究のレビュー（3）	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第13回	先行研究のレビュー（4）	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第14回	まとめ	研究の知見と独自性について討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見や要望を積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【〔専門領域〕】

環境社会学・地域社会学・観光社会学

【〔主要業績〕】

『井戸端からはじまる地域再生－暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方－暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析－環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ－福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

SOW600Q2（社会福祉学 / Social Welfare 600）

地域創造演習B

野田 岳仁

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会においてフィールドワークを行い、地域問題の解決や地域づくり、地域ツーリズム、地域環境などの政策にかかわる修士論文を執筆するために環境社会学・地域社会学の主要な方法論である生活環境主義の方法をマスターすることを目的としている。

【到達目標】

フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法、論文執筆の作法を身につけることができる。これらの技能を修得することを通じて、高度な修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本演習では主体的な課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。修士論文執筆に必要な高度な専門知識、調査技法、論文作成方法を身につけるため、綿密な指導を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第2回	調査データの分析（2）	データの解釈
第3回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第4回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第5回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第6回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第7回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第8回	論文執筆（4）	目次の確定
第9回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈
第10回	論文執筆（6）	分析結果の再検討
第11回	論文執筆（7）	結論の見通しの再検討
第12回	論文執筆（8）	理論仮説と作業仮説の再検討
第13回	論文執筆（9）	論理構成の再検討
第14回	修士論文の完成	学問の実践性の検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点（50%）、論文や発表などの成果物（50%）の総合評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見や要望を積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【〔専門領域〕】

環境社会学・地域社会学・観光社会学

【〔主要業績〕】

『井戸端からはじまる地域再生－暮らしから考える防災と観光』（単著、筑波書房、2023年）

『Everyday Life-Environmetalism: Community Sustainability and Resilience in Asia』（共著書、Routledge、2023年）

『環境社会学の考え方－暮らしを見つめる12の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019年）

『生活環境主義のコミュニティ分析－環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018年）

『原発災害と地元コミュニティ－福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017年）

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance (Discussion, presentation, and report) (50%).

ARS1700Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700)

研究論文指導A

高尾 真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、査読論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、論文執筆のスキルを習得する。修士論文の再検討と査読論文の執筆を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
3回	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
4回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究レビュー等、個別指導を行う
5回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究等、個別指導を行う
6回	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7回	論文作成に向けた個別指導 RQの設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切なRQを設定するため、個別指導を行う
8回	論文作成に向けた個別指導 RQの設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切なRQを設定するため、個別指導を行う
9回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
10回	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
11回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

13回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビュー、分析手法、論文執筆のスキル等、査読論文の投稿に向けた個別指導を行う
14回	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビュー読、分析手法、論文執筆のスキル等、査読論文投稿に向けた個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』2024年、光文社
その他、各自の研究テーマに合わせて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARS1700Q2（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 700)

研究論文指導B

高尾 真紀子

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】

地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文の投稿及び掲載を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
3回	論文作成に向けた個別指導 文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
4回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
5回	論文作成に向けた個別指導 統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
6回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
8回	論文作成に向けた個別指導 定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
9回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
10回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
11回	論文作成に向けた個別指導 定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
13回	論文作成に向けた個別指導 結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

14回 論文作成に向けた個別指導 査読論文
各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】

授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

査読論文執筆に向けた具体的な指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSx700Q2（地域研究（その他） / Area studies(Others) 700)

研究論文指導A

上山 肇

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】

論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーの
うち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最
後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方についての説明
第2回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第3回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第4回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第5回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第6回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第7回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第8回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第9回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第10回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第11回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第12回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第13回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第14回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。

【テキスト（教科書）】

適宜示します。

【参考書】

適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis of
urban policy to students taking this course.

[到達目標 (Learning Objectives)]

Preparation of papers and presentation at academic confer-
ences, etc.

[Learning activities outside of classroom]

Reading related literature.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the
presentations and discussions, and the research results.

ARSx700Q2（地域研究（その他） / Area studies(Others) 700)

研究論文指導B

上山 肇

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】

論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーの
うち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最
後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の進め方について説明
第2回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第3回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第4回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第5回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第6回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第7回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第8回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第9回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第10回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第11回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第12回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第13回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導
第14回	研究に関する個別指 導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読。

【テキスト（教科書）】

適宜示します。

【参考書】

適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.

[到達目標 (Learning Objectives)]

Preparation of papers and presentation at academic conferences, etc.

[Learning activities outside of classroom]

Reading related literature.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

MAN700Q2（経営学 / Management 700）

研究論文指導A

石山 恒貴

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の初年度に該当し、最終的な博士論文の完成を可能とするための知識・スキルの習得を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

MAN700Q2（経営学 / Management 700）

研究論文指導B

石山 恒貴

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。

博士後期課程の中間の年度となることから、博士論文に着手できる条件をすべて整えるための内容を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士論文に着手できる条件を整えるために、特に査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

Goal

At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers. Emphasis will be placed on reaching a level that will enable students to write peer-reviewed papers.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria

Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

ECN700Q2（経済学 / Economics 700）

研究論文指導A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ 発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ 発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップ の振り返りと論文 テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves. (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN700Q2（経済学 / Economics 700）

研究論文指導B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN700Q2（経済学/Economics 700）

研究論文指導A

田中 優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、研究活動を遂行するために必要な関連研究のリサーチ方法や論文執筆の作法、仮説設計の方法について学ぶ。また、調査手法としてケーススタディ、フィールドスタディ、質問票調査、計量統計学、実験的研究、自然言語処理などを学び、実際に研究を進めるための実践的なスキルを養う。

【到達目標】

- ・研究活動を遂行するために必要な知識を獲得し、自身の独自の研究課題に対して援用する能力を身につける。
- ・研究論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査や輪読を通じて高度な専門知識を習得し、指導教員からの助言を受けて自らの論文を議論することで、研究者としての素養を養う。また、指導教員の研究プロジェクトに参加し、実践的な経験を積む。授業は対面やZoom、メール等で進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	各自の研究テーマを報告する。 文献サーベイの手法を案内する。
第2回	研究手法の案内 文献サーベイ	研究手法を概観する。
第3回	文献サーベイと仮設計①	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第4回	文献サーベイと仮設計②	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第5回	文献サーベイと仮設計③	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第6回	文献サーベイと仮設計④	自身の研究課題について関連文献を調査し報告する。
第7回	研究計画①	自らの研究計画を立てる。
第8回	研究計画②	自らの研究計画を立てる。
第9回	研究計画③	自らの研究計画を立てる。
第10回	研究計画④	自らの研究計画を立てる。
第11回	ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連研究の調査、自身の研究計画の推敲、必要な専門知識の調査を常に行うこと。次回講義までに1日最低30分を費やすこと。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含める）。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

オンラインの場合は、WIFI環境、議論ができる環境。

【その他の重要事項】

本講義は子供を帯同しての受講を認める。そのほか受講にあたって配慮が必要な場合は相談してほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to equip students with the essential skills for conducting research and writing academic papers. It covers research techniques for related studies, proper writing practices, and methods for hypothesis design. Additionally, students will learn and practice various research methods, including case studies, field studies, surveys, quantitative research, experimental research, and natural language processing, to enhance their ability to carry out research effectively.

ECN700Q2（経済学/Economics 700）

研究論文指導B

田中 優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、研究活動を遂行するために必要な関連研究のリサーチ方法や論文執筆の作法、仮説設計の方法について学ぶ。また、調査手法としてケーススタディ、フィールドスタディ、質問票調査、計量統計学、実験的研究、自然言語処理などを学び、実際に研究を進めるための実践的なスキルを養う。

【到達目標】

- ・研究活動を遂行するために必要な知識を獲得し、自身の独自の研究課題に対して援用する能力を身につける。
- ・研究論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文献調査や輪読を通じて高度な専門知識を習得し、指導教員からの助言を受けて自らの論文を議論することで、研究者としての素養を養う。また、指導教員の研究プロジェクトに参加し、実践的な経験を積む。授業は対面やZoom、メール等で進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究進捗報告	夏季休暇中に実施した研究の進捗を報告する。
第2回	研究計画①	長期的目線に立って研究計画を調整する。
第3回	調査①	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第4回	調査②	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第5回	調査③	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第6回	調査④	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第7回	調査⑤	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第8回	調査⑥	自身の研究課題について調査を実施する。文献調査、調査票設計、インタビュー、現地調査を含む。
第9回	調査報告①	調査結果を報告する。
第10回	調査報告②	調査結果を報告する。
第11回	ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など

第13回	ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	秋学期の研究成果をまとめ、改めて研究計画を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連研究の調査、自身の研究計画の推敲、必要な専門知識の調査を常に行うこと。次回講義までに1日最低30分を費やすこと。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含める）。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のためなし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

オンラインの場合は、WIFI環境、議論ができる環境。

【その他の重要事項】

本講義は子供を帯同しての受講を認める。そのほか受講にあたって配慮が必要な場合は相談してほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to equip students with the essential skills for conducting research and writing academic papers. It covers research techniques for related studies, proper writing practices, and methods for hypothesis design. Additionally, students will learn and practice various research methods, including case studies, field studies, surveys, quantitative research, experimental research, and natural language processing, to enhance their ability to carry out research effectively.

OTR700Q2（その他 / Others 700）

研究論文指導A

梅崎 修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の学生を対象に、博士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。特に博士課程の初年次には、博士論文作成に必要な知識とスキルの習得を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文に向けての個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における議論を行う。また、修士課程在籍者との共同調査・研究会を通して、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論

第12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別研究テーマおよび関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個別に指定する。

【参考書】

個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心領域を考慮しながら適切なアドバイスを行う。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the doctor program. They will write his/her doctoral dissertation with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following in-class contribution(100%).

OTR700Q2（その他 / Others 700）

研究論文指導B

梅崎 修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の学生を対象に、博士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。特に博士課程の初年次には、博士論文作成に必要な知識とスキルの習得を重点的に行う。

【到達目標】

学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。

博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

地域創造インスティテュート博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文に向けての個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における議論を行う。また、修士課程在籍者との共同調査・研究会を通して、自身の研究領域への理解を深めていただく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第2回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第3回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第4回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第5回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第6回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第7回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第8回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第9回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第10回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第11回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論

第12回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第13回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論
第14回	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、修士課程・博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別研究テーマおよび関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに合わせて個別に指定する。

【参考書】

研究テーマに合わせて個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指導学生の関心を踏まえて柔軟にアドバイスをする。

【Outline (in English)】

This class is for the students of the doctor program. They will write his/her doctoral dissertation with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

